

687

特233

538

人間理學講話 第九分冊 (改訂)

社會完成篇

| | |
|-------|-----------|
| 第六十二章 | 時代の變遷 |
| 第六十三章 | 社會生活の根本意識 |
| 第六十四章 | 産業意識 |
| 第六十五章 | 政治意識 |
| 第六十六章 | 國策の根本 |
| 第六十七章 | 強民族の牽制 |
| 第六十八章 | 弱民族の指導 |
| 第六十九章 | 永久平和の確立 |



始



盲らが象の脚を擦すつて、象の柱のよおだとゆう。他の盲らが象の脚を擦すつて、象の柱のよおだとゆう。全體を見ずに部分だけを見ると、之にも類した誤謬に落ちる。

人生を説く者が社會を見なければ、大きな誤謬に落ちるであらう。社會を説く者が人間性を無視すれば、また大きな誤謬に落ちるであらう。現代の思想や主義や、哲學と文藝にさえも、こおしたことから大誤謬がある。もちろん葬式屋に墮落した既成宗教にわ、大きな誤謬がある。

人間理學の人間性確認わ、經濟生活理學と表裏して、人生と生活の一切問題を總解決する。現代の悩み、有らゆる民族と人類の社會問題を、人間理學を果たして残りなく解決し得るであらうか。本篇わ其の大綱を述べる。

人間理學の確認を社會問題に充て抜めて、解決し得ない何んの疑問も残りぬならば、人間理學の確認わ、社會生活の方面からも證明されたと言える。いやいや、有らゆる社會問題わ結局すると、人間理學の人間性によつて解決されねばならぬ。そおでなければ、人間ばなれした唯物利害の打算に落ちて、首のない胴體と脚だけが、盲目的に探がし出されるだけであらう。

第六十二章 時代の變遷

意識の狭いうちわ簡單であつたが、人類大衆の意識が進んで來ると、物事がみな複雑になる。進化して人間となつた當初わ、他の動物と餘り隔てのない生活をしていたであらう。今日でも未開の生蠻人などわ、美愛眞善を理解せず、動物から遠くない生活をしていて、熱帯地方ならば裸體で暮らし、寒い地方ならば熊の毛皮でも着て、家なども誠に粗末であり、文化を知らない單純な生活である。文化の都會でも、裏長屋に廻わつて見ると、綺麗でない不潔な生活をして平氣でいる。人類の意識が美を知らず愛を求めず、眞理と最善に付いても無感覺であつた間だわ、山河の地形に據つて隣りあいに住んでいる少數者が自然の生活單位となり、物事が誠に簡單であつたから、自然自治とも言ひ得る姿で生活することができた。最初わ農耕を知らず、山林に木の實を拾らい、海邊に貝類を掘つたであらう。ヤマトとわアイヌ語で粟多い意味だともゆう。我國の古代人わ山林の木の實を拾らい、また播津や伊勢の靜かな入江で貝類や海老を取つてわ干し、しごく單純な生活をしていたらしい。山の幸ち、海の幸ちとわ、こおした時代の生活から出た言葉であらう。

幾分か文化が進むと、簡單な器具を作り、よし石を材料にしたとしても、石の矢の根で毒矢を拵らえ、狩することも出来だした。農耕を知つて農具が進むと、文化の黎明が深草の平野をほのぼのと染めだし、其の間だに幾千年が經過して、人類の意識わ美を知り愛を求めて眞善の方向をも見だした。しかし、かくも廣く意識を進めた

者わ、人類の大衆でなくて、孔子の時代でさえも大衆を教え得ず、ただ導びいて由らし得るだけであつた。

大衆の意識がまだ暗い間だわ、美を知つても美に憧がれないから、大衆を生活に文化を求めず、特別に意識を速く進めた少数者のみが美に憧がれて、まづ禮樂より大衆を美意識に誘わんとしたであらう。大衆の意識がまだ暗かつたけれども、少数者わはや美愛眞の方向に意識を進めていて、これら少数の意識者わ禽獸と遠くない粗野の生活に耐えられず、文化に近い生活様式を工夫した。これら少数の意識者を假りに貴族と言わお。この時代わ貴族のみが美と愛と眞を知り、大衆わ穴居にも近い、禽獸から遠くない粗野な生活を、苦痛に思わなかつたであらう。

古代に於て文明わまづ貴族から始まつた。貴族わ早く人間性を進めて美愛眞善を意識に燃やしたが、大衆わなお無關心でいて、飢餓さえ覚えねば牛の如く豚の如く安逸を貪ほつていた。それを堯舜わ恐らく悲しんだであらう。また堯舜わ必らず美愛眞の生活を求めたであらう。自分だけが美愛眞の文化生活をすることわ本意でなかつたであらう。けれども、大衆わまだ理解せぬ。それゆえ身を以つて範を示すほかなかつたので、大衆にわ工藝を教え、その産物を自分の周圍に集めて、帝王と貴族がまづ文化生活を始めたのも餘儀ないことであつた。げに大衆意識わ美愛眞に無頓着であり、要求されなければ安逸を貪ほつた。それで、政治わ大衆に工藝品の勞作を求めたのである。しかし、この時代にわ多くを求めず、僅かに帝王と少数貴族だけが、文化生活の初階段をなす用度の品々だけを工作さした程度であつた。

搾取と見てわいけない。堯舜わ搾取する心でなく、大衆が美を知らずに、消費欲望さえ満足すれば、腹鼓を打つて安逸に耽るを、げに悲しいことに思おたであらう。それで、餘り多くでない藝術用度の品々を工作さして、帝王と貴族が人間生活を示したに違がない。天照大神わ瓊々杵尊を大八洲に送られて、草深いアイヌ野蠻の

古代日本を美愛眞の文化國に導びかんとされた。そのおり玉と鏡と劍を神器として授けられたのわ、げに意義深いことであつた。玉わ當時の最高藝術であつて人間性の美を代表し、鏡わ容姿を整えて他人に不快の思いをさせない愛の人間性を代表し、劍わ罪惡を斷絶する眞の人間性を代表する。

劍だけでわいけない。玉と鏡がなければならぬ。意識の進んだ人わ、ややもすると劍を否定するが、孔子も少正卯を斬つた。意識の狭い者が、もし美愛眞の文化を妨害して、人類を何時までも禽獸と同じ世界に置こおとするならば、彼れ一人が禽獸の生活をするのわ仕方がないとして、美愛眞善の文化に進む大衆を、禽獸の方向に縛り付けんとするのわ、即ち文化に對し反動の役割をするのわ、劍を示しても克服する必要がある。禽獸の人間にわ肉體のみあつて、精神體の人間實質わ實のらない。この不具な彼れの生命を尊重する爲めに、大衆が自己完成の永久生命に行こおとするを妨げさすことわできない。マホメットも劍を携げ、佛像にも破邪の劍を持たして

いる。

美教者わ弱くない。ほんとのことを本統に言う。もし私が悪人であれば、私の心に大衆の人間完成を妨げる反動の惡念があれば、遠慮わいらぬから、直ぐ私を殺せ。しかし、私わ決して人を殺さぬ。殺さずに根氣よく、その惡い人を導びこおとする。これ愛であり、また美であり、それゆえ劍だけでわいけない。玉と鏡をも持たねばならぬ。

殺さずに教えるならば、劍わ無用でないのか。私わ殺さぬ。しかし、無理解な反動者が、愚かな誤解から反逆して來れば、もし反逆者が私を殺しにやつて來れば、私わ如何にしよおか。私わ逃げる。もし逃げなければ如何にしよおか。私わ殘念ながら無抵抗に殺されるであらうおか。

私が悪人であり、善人に殺されるのならば當然である。私が善人であり、悪人に殺されるのわ仕方がないとし

て、私を殺した悪人が私と同じ善人を片はしから殺すならば、それでも私が無抵抗に、合掌し念佛して残念にも往生するであらうか。いやいや、美教者わ眞理と最善の先驅者である。万一にも、そんな残念なことが起こるならば、しかたがないから、敢然と反抗して戦かう。劍わ此の爲めに必要である。しかし、劍だけでいけない。劍わ悪人を斬る爲めよりも、善人を守る爲めに必要であり、悪人に向かつて劍を抜かず、ただ善人を守る爲めに劍を抜かねばならぬ。それでも悪人にわ玉を見せ鏡を示し、根氣よく教えて啓蒙し、また由らして指導せねばならぬ。

支那にわ堯舜がいたが、美愛眞の人間性を確認する中心が動揺し、三千年の長い歴史に平安がなかつた。今日の支那にも、まだ平安がない。しかし、天照らす日の出る我國にわ、劍、鏡、瓊によつて代表される美愛眞の人間性が、臆ろ氣でわあるけれども國粹の基礎をなし、貴族往々にして腐敗したが、天皇わ代々模範を示され、美愛眞を思う基礎が動揺しなかつた。人間理學美教わ希臘思想でなく、印度思想でも支那思想でもない。

時代わ移つた。自然自治の狭い時代わ遂に移つて、人類の大衆が美を知り愛を思い眞を求めだした。しかし、大衆の全部が美愛眞を強く心の憧がれにしていたわけでない。遅れた國々でわ、今日でもまだ野獸の粗野な生活から遠くない民衆さえもいる。それでも時代わ進み、帝王と少數貴族だけでなく、大衆の中からも意識の廣い者が續々と出た。

意識の廣い者わ、美を知つて文化生活を求め、愛を知つて争そいのない平和と光榮を大衆の社會生活に思い、眞を悟つて善を何にぞと問いつつ、正義人道を仰ぎだした。武器を取つて反動の匪族を清掃する人々にも意識が擴がり、それにつれて封建時代が自然自治に續く貴族の朝廷に代わつた。支那ならば堯舜から殷の頃までわ、自然自治に續く朝廷時代と言へるであらう。周でも漢でも天下を取れば、また聖賢の道を謳歌して朝廷政治を復活

したが、太平が續くにつれて、意識の廣くない貴族の子孫が跋扈し、美愛眞善と反対な虐政を行ない、意識の廣い武器者が常に新らしく交代し、また群雄割據の封建時代を屢々繰り返した。異人種の争そいが烈しかつた亞刺比亞から歐洲にかけてわ、自然自治から直ちに封建時代に移つたかの觀がある。これ、東洋各國にわ武道のほかに王道があり、西洋にわ希臘や羅馬の征服思想しかない由縁である。羅馬わ千年の泰平を保つたと見えるけれども、内部にわ武人の争そいが封建の群雄割據よりも烈しかつた。

ともかく時代わ進んで、帝王と貴族と諸侯と騎士と歩卒に至るまで、大衆よりも先きに意識を廣め、此等の人人に人間性の美愛眞に近かいものが芽生えた。なるほど、此等の人々わ支配階級となつて、長いあいだ専制にも近かい政治をした。此等の人々に増長者も多かつた。それでも大衆の意識わ一層狭く、大衆わ美愛眞の人間性から遠かつたので、専制の支配も止むを得なかつたのである。

哲學から科學え、宗教から思想えと、睿智の意識わ進んだ。また交通機關の整なうと同時に、新しい印刷技術と火藥を用いる武器の進歩わ、狭い封建時代を、廣い民族と全人類の社會生活に發展せしめ、民族と人類の大衆からも、營利の産業に従事する者からわ無ろん、意識の進んだ人々を輩出させた。彼等の美意識わ利用美の範圍を出でず、彼等の愛意識わ偏狭愛に濁つていても、また彼等の眞意識わ欲望満足的手段に悪用されたが、ともかくも産業の指導者だちまで、人間性の美愛眞に彼等の意識を近かつけた。芽生えた意識わ殺せない。意識わ益々擴がり、それにつれ國々と世界の歴史わ展開して進んだ。支配者の中かにわ誤解して虐政を行のおた者もいた。誤解者わ農耕労働の大衆を、少數な特權階級が文化生活をするに必要な用度の品々を作る賤民と考がえ、大衆わ支配階級者わ種類を別にする劣等存在であるとも錯覺していたであらう。しかし同じ兩親から生れた兄弟でも浪費して財産を失なえれば、窮乏して農耕さえも出来ない労働者やルンペンとならねばならぬ近代となり、こ

した誤解殆んど全たく一掃された。祖先の血統を喧ましく詮議した世襲時代でさえ、既に王侯將相なんぞ種あらんやとも叫ばれ、教祖と聖賢わ一致して大衆の爲めに仁義や慈善を説いた。そして、こおした教訓を支配階級わ道徳として尊重し、この教訓の反省によつて、支配階級からも普遍意識の先驅者を出現させた。もちろん支配階級の中かにわ數多い誤認識者がいた。けれども、支配階級わがらいい意識の進んだ祖先の系統であるから、マノフ家からクロボトキンが出た如く、いつの時代にも支配階級に先驅の普遍意識者がいたことも確かである。そして大衆の中から現われた普遍意識者と心を通よわして、社會の生活環境を淨化しよとおと心を碎いたことである。之わ事實であり、この事實を無視して、支配階級の全部を民衆の彈壓搾取者と思つて、唯物人生史觀からの錯覺である。特に我國の支配者にわ、崇神天皇があり雄略天皇があり仁徳天皇があり天智天皇があり、支配階級わ強がち彈壓の搾取者でなかつたのである。

大衆の中ちから現われた意識者わ、知識階級と産業の所有階級に多かつた。貴族や武人の中ちから出た意識者わ、まづ知識階級と所有階級に政治えの參與權を與え、立憲議會が國々に設立された。現代わ此の末期である。

立憲議會の現代を惡るいとわ言わぬが、時代わ益々進んで、農耕大衆と勞働大衆の青年男女が、續々と人間性を目ざめ、美愛眞善の意識を高めた。芽生えた意識わ殺すことができない。げに幸わいでないか。孔子わ由らしむべし、教ゆべからずと嘆じたが、時代わ大きく進んで、教え得る世界文化の光明に開けた。

普通選舉くらいで誤魔かしても、もお大衆わ満足せぬ。かくも大衆意識が進んだところから、立憲議會わ時代に適當しなくなり、大衆が鋭どく意識を進めた歐洲各國に、民衆から現われた普遍意識者が、正しい安定と幸福を自分の國より實現して、之を世界と全人類に擴げよおとし始めた。伊太利にわムソリーニが出た。獨逸にわヒットラーが出た。英吉利にわマクドナルドがいる。露西亞のレーニンやスターリンも、同じ方向の先驅者であ

る。古來より王道を知る東洋各國も、特に大衆意識の進んだ我が國わ沈思熟考している。天照大神が授けられた劍鏡瓊を見詰めるとき、人間理學の確認わ、經濟生活理學の確認に一致し、純美純愛純眞の普遍意識より、眞理と最善の規範完成を、精神生活と物質生活の兩方面から、天壤無窮に確立せねばならぬを思う。

大衆の意識が暗かつた間だわ、まづ意識を進めた貴族や武人が獨裁したのも止むを得ぬ。その時代にわ堯舜や周公や孔子の如き人物がいれば、じつに大衆の幸わいであつた。しかし大衆の意識が僅かに進みかけると、唯物利益の打算に鋭どい親分と乾分の集團が、土匪や馬賊や教派や政派などの姿で現われて、封建時代の混亂よりも激げしい争いをする。現代支那を見るとき、自然自治と同じ形ちで、意識の高くない民衆が、漠然と自治と言われる幸福な生活を持ち得ると思えば、歴史發達の順序を知らない愚鈍である。意識わ如何なる場合にも、少數者にまづ進み、民衆わ狭い野獸から徐々にしか目ざめない。今日でもまだ意識の低い東洋の未開諸國でわ自治が不可能であり、意識の高くなりかけた西歐と極東日本でさえも、美愛眞善の規範生活わ、實力を以つて知らし且つ維持せねば、安定と幸福な完成社會の實現わ、餘りにも待ち遠い理想でしかない。西歐各國に新らしい獨裁が主張されるのも、過渡期としてわ餘儀ないことである。しかし、それを長く少數者の獨裁たらしめてわならぬ。いかなる時代にも、支配階級と周圍の少數貴族だけが文化生活を享樂する搾取の爲めに、獨裁があつてわいけない。スタリオンでもヒットラーでもムソリーニでも、享樂と搾取の爲めに獨裁するのでわないであらぬ。新らしい獨裁わ美愛眞善の規範社會を確立して、人間性の自己完成を全人類に徹底せしめる爲めであらねばならぬ。この心でならば、東洋の王道に一致している。ただ彼等新らしい獨裁者わ、純美純愛純眞の人間性と眞理に最善の規範社會を判然と知らない。だから、大衆と同時に世界の獨裁者と周圍の人々えも、判然と之を知らさねばならぬ。

過去に於て行なわれた少數貴族の獨裁は、今日より見れば善くなかつた。しかし、大衆の意識が低い間だわ、それも仕方のないことであり、少數貴族が文化生活を維持して藝術を發達さしつゝ、大衆の意識を進めたのも、善意に解釋すれば餘儀ない手段であつた。今日に於て特權者や有産階級が此の意識で反省しつゝ、文化生活を知らず方向に遠慮するならば、安定と幸福を獨占して見える彼等の私生活も、あながち非難されないであらう。けれども、特權者や有産階級が大衆に率先する文化生活を非難せず許されるのわ、大衆を啓蒙して美愛眞の人間性に誘ひ、また眞理と最善の規範生活を大衆が理解して、大衆も共働する團體の共用生活を新らしく建設しようとなつれば、全人類が誰れもがみな文化の光榮生活を持ち得ると教えつゝ、大衆を此の方向に導びく啓蒙を怠らなうことを條件とする。意識を進めて特權と支配の指導地位にいる者わ、天照大神の叡慮に従ひ、堯舜と周公の心にもならねばならぬ。釋迦や基督や孔子の心も同じであつた。純美純愛純眞の普遍意識が、即ち此の心である。

國と世界を善くすること容易でない。何時の世でも普遍意識者が心を合わせて時代を進めた。古代わ貴族のみが心を合わせるほかなかつた。なぜなら、大衆わ粗野な野獸より、僅かに意識を進めたばかりであつた。貴族だちわ、次に武人と共力した。次に知識階級や産業の所有階級と共力した。共力しつゝも、その共力が破れる處ろに時代の混亂が起る。戰國封建時代わ最も烈しい混亂であつた。いまわ、知識階級や産業の所有階級の共力が破られ、混亂の渦中にある。

時代わ進んだに拘わらず、貴族が超然としてゐるならば、貴族こそ無用の浪費者となる。それゆえ武人から脱落とされた。武人も超然としてゐれば、また有害無益の存在となる。漸く此のころ我國の武人わ目ざめた。誠に善いことである。貴族も目ざめろ。知識階級も目ざめろ。政治家も、政黨人も、文藝家も、所有人も、農牧者も

勞働者も、悉ごとくの大衆が、みな目ざめて、人間と社會の完成に共力しろ。

階級意識と階級闘争など、そんな偏狭なものを、いつまでも玩弄してゐてわいけない。貴族も因循で高慢な錯誤の傳統意識を放棄しろ。孟子も君子わ人と善を爲すより大なるわなしと教えた。武人わ威張らず、産業資本家も横暴せず、政治家も文藝人も農牧者も勞働者も、凡ての普遍意識者が共力一致して、民族と全人類を規範と完成に誘う大善を爲そぞ。しかし、意識の低い者とわ共力できない。だから教えられない低能意識者わ、止むを得ず由らすのである。先驅の普遍意識者わ、階級と職業と人種と利害とを超越し、人類と社會の完成を實現する爲め大善の共力をしよおぞ。

露西亞にわ共産黨がある。伊太利にわファシスト黨がある。獨逸にわナチス黨がある。いづれも階級を超越して意識の進んだ先驅者を結合する。彼等わ指導原理を誤まつてゐるが、階級を超越した意識者の共力一致わ國々和世界の何處にも必要である。人間理學と經濟生活理學によつて、人間性を確かめ眞善規範の完成を知り、普遍意識を持つ凡ての人が一切を超越して、まづ我國に鞏固な大善の共力を結合し、それと同じ方向のものを世界の國々に出現さして、大善普遍意識者の總結合と總努力を圖らねばならぬ。我等わ新らしく萬國の普遍意識者總結合せよと叫ぶ。

貴族が中心となつてもよい。武人が中心となつてもよい。産業資本家が中心となつてもよい。知識階級が中心となつてもよい。數多い農牧者と勞働者が中心となつてもよい。誰れが中心にならうと、普遍意識の完成先驅者であるから、優越觀や名譽心などで勢力争いをすることわない。必らず心から大善の共力一致をする。もし誰れか一人が責任者として推薦されるならば、堯舜にも似た心で迷惑がるであらう。しかし、先驅者わ辭退せず、また執着せず、一切を犠牲とし、自己感情の最大なものをも犠牲とし、人間實質の自己完成の爲めに、また眞善

規範の社會完成の爲めに、我等階級を離れ職業を離れ利害を離れ名譽を離れ、純美純愛純眞の人間性から、ただ純粹に日本と世界の普遍意識者總結合せよと叫ぶ。時代わ實に大きく變遷した。時代わ必ず大きく變遷せねばならぬ。

630

第六十三章 社會生活の根本意識

産業組合中央會神奈川縣支會主催の中堅青年講習會に於て、私わ昨日語つた。世間わ資本家を罵しり産業組合を謳歌するけれども、過去に於て資本家の功績わ多大であり、産業組合わ寧ろ罪惡さえして來た。三井三菱等の大資本家があつたればこそ、我國わ世界に雄飛し得る産業の基礎を固めることができた。しかるに産業組合わ何にを爲したか。純朴な農村に借金を教え、村の中心有志を理事者として、彼等に公金を費消することを教え、かくして農村を破壊し農村人の疲弊を進めたものわ、産業組合であつたのである。けれども、これわ過去の事實であり、永久に資本家を禮讃するのではなく、また斯く産業組合を非難したのわ、それを無用と思ふからでなくて、誠に産業組合こそ將來社會の主役を爲さねばならぬと思ふから、青年の力により過去の誤謬を訂正して新しい革新を成就し、大きな將來の任務を盡くさしめんと希望に燃えて、心から苦言を呈したのである。資本主義を打倒せよと論難するが、突然と産業資本家が消滅すれば、果たして我國わ如何になるであらうか。それこそ非常に大きな禍わいである。資本主義を攻撃する者わ、退いてまづ之に代わる組織を立てなければならぬ。例えば農産物を大量に加工しても、之を海外にまで販賣するにわ、産業組合自身が海外各地に出張所を設けるなど、三井・三菱以上のことを實際に行なわねばならぬ。そのときこそ産業資本家は無用となるから、産業組合の大きな加工と交換の組織が確立しさえすれば、産業資本家わ護るであらう。もし飽くまでも頑張り、永久に

資本主義を固執するならば、そのとき始めて資本主義が害悪となるのである。

恩を知るわ東洋道徳の根本である。西歐人往々にして恩を知らず、ただ目前の利害だけで判断する物質万能の利那欲望主義である。恩を知ることこそ、ゆかしい美愛眞が、人間性に現われたのである。恩とわ、永いこと過去に於て親しくし、物質上の利益をも受けた者が、事情が變化して利益を受けられなくなつても、過去の恩義を思い、こんど逆くに利益を受けた方から種々な面倒を報恩さえもすることである。それでも、利害が反對する立場になると、恩義のゆえに庇護し得ない場合も起る。しかし、この場合でも弊履に對する如くにわ態度を換えず、永く懇意にしたことであるから、相變わらず懇意を續け、個人としてわ出来るだけの心配をし、公私混同を悪むいから、公人としてわ恩人にもせよ、不心得なことがあれば許さず、しかし敵とわせず親切に勸告し、方針を改めて正しい努力に轉向さそとお心盡くしをする。それでも容れられなければ、松王丸にも似た態度をも取るとゆうのが、げに貴とい恩義を思ふ人間性の純情である。西歐人わ物質に偏し、愛を説く基督教會の人々にも、これほど固く義理を立てあう恩情がない。忠義とゆうも孝行とゆうも、極東の日本人に優雅な恩情の現われである。

過去に於て偉大な資本家があつたればこそ、かくも輝やかしい産業日本が出現した。もし功勞を賞めるならば現代日本の建設にわ、三井にも三菱にも、その他の産業資本家に偉大な功勞があつたのである。この恩義わ永久に忘れられぬ。しかし今後永久に商工業を資本家の經營としてよいのか。

資本主義わ營利を基本觀念とし、營利わ營利と争ひ、そこに美愛と反對な行詰まりが起こつた。しかし營利の個別意識より會社意識に進み、幾分か意識わ資本主義に依つても擴げられた。また大衆の物質生活を文化の方向に高める階段としても、資本主義わ大きな役割をして來た。けれども、人間實質と生活文化の意識を此の上へ

にも擱げて、美愛の永久普遍と眞善の規範完成に上ばらすにわ、もお利害に拘泥する資本主義でわいけない。それでも突然と資本主義を打倒すれば、却つて大きな混亂と、食えない大衆の窮乏を起こす。

げにも過去に於て資本主義わ、狭い個人意識を幾分か廣い會社意識でいどにまで進めるに功勞があつた。また資本主義があつたればこそ、産業日本わ出現したのである。こおした過去の恩義を忘れず、それでも新しい加工と交換の規範組織を確立し、そのとき資本主義が無用となれば、恩義に依つて諄々と説き、徳川幕府に大政を奉還さした如く、美愛眞善の規範社會が確立するにつれて、ほんとに廣い普遍意識の最後組織え、資本主義經營を護らさねばならぬ。

明治維新に於ける徳川幕府の大政奉還わ、まことに人情美を發揮している。歐羅巴であつたならば、また支那であつたならば、徳川家の祭わ絶えたであろお。我國に於てわ過去の恩義に依つて、徳川家を華族の上位に優遇している。之わ美るわしい恩義を思ふ人情美でないのか。神武天皇わ東征の際に、裏切者の饒速日命が長髓彦を切つて降参するに及び、過去の罪を問わす却つて賞めて優遇された。我國にわ古しえより此の人情愛があつたればこそ、東洋の君子國として世界から仰がれる。資本家に對しても、歐米社會主義者と同じ態度を取つてわならぬ。まして我國資本家の任務を終了しておらぬ。我國資本家にわ、さらに大きな任務が残つている。我等わ我國資本家に大きな新任務を期待し、之を完全に遂行したとき、愈々貴族として優遇せねばならぬと思ふ。

遠い過去に於て意識をまづ進めた貴族が文化生活をした。大衆わ彼等の爲めに美藝の用度品を製作する奴隷でもあるかに見えた。歐米思想わ斯く見るのである。

劍鏡瓊を守る我國貴族にも、蘇我氏の如き不心得者がいた。しかし貴族の中かにわ、意識の廣い先驅者も少くなくわなかつた。それらの意識者わ、よし周公の心となつて民衆の全部に文化生活をさそおと望んでも、工業の

幼稚な過去に於て、民衆の全部が文化生活をすることわ不可能であつた。また民衆の意識が狭いから、刹那の肉體欲望を追求するだけで、酒色の満足さえ得れば安逸に耽つた。その意味わ、よし文化生活の設備を興えても、その維持ができないことである。

之わ實話である。私の先輩で三菱電機會社の會長をしている川井源八氏が關西にいたころ、西宮海岸に立派な邸宅を建てた。私わ其の邸宅を幾度も訪問して、綺麗に掃除された廊下などが光つてゐるを見た。川井氏わ東京に移轉した。西宮の邸宅わ親戚の青年夫妻に預けた。その青年も私の知人である。幾年かして私わ川井氏を訪問した。川井夫人が私に語ることにわ、西宮の邸宅を親戚の者に預け、無賃で住まわし、その代わり綺麗にして呉れと頼んでありましたが、行つてみると汚たなくなりました。掃除も行き届かず、蜘蛛の巣だらけで、廊下わ黒くなつていました。私わ毎日女中と一所になり、廊下を光るほど雑布かけしていましたが、親戚の者わ月に一度も雑布かけをして呉れません。汚たなくしておくと良心が咎がめますから、ほんとに安く捨て賣りにして、他の人え譲りました。こおした種類の實話わ、時々耳にすることである。

社會主義者などわ貴族や富豪が文化生活を獨占してゐて、甚だ不都合だと頭から非難するが、それなら、貴族や富豪の邸宅を開放すると、果たして意識の低い者等が綺麗に文化を維持することができるであらうか。それわ恐らく不可能である。綺麗に文化設備を維持するにわ、毎日の拭き掃除が必要であり、それを根氣よく怠たらすに毎日毎日繰り返すにわ、物質利害の損得などを考えない、程度の高い美意識が充分に發達せねばならぬ。美意識が高度に發達せぬ者わ、時間に餘裕があると安逸に耽つて愚かに暮しがちであり、飲食する物質欲望の爲めになれば、意識の低い人々も餘り怠けず努力するが、まあ肉體缺乏の欲望さえ満足されると、意識の低い人々わ拭き掃除などせず、手足を動かさない氣樂な方えゆき、勉強するにしても情慾文學の軽い雜誌などを讀むほど

で、性質の悪い人々になると、つまらぬ口論などを始め娯樂がわりの時間つぶしをする。

貴族や富豪が意識を擴げて、民衆にも文化生活を興えんとしても、意識の低い民衆わ之を受取り得ない。しかしらば野蠻の粗野に放任して置いてよいのか。それわいけない。今日でわ民衆の意識が幾分か進み、紅燈綠酒の街を歩いて映畫館にも入り、低い程度でわあるけれども、美と藝術を理解してきた。しかし、まだ種々なものを興えられても、文化生活を奇麗に維持するほどに彼等の美意識わ緊張してゐない。そこで、一層時代を進歩させし人類を純美に誘う段階として、貴族や富豪がまづ文化生活をし、その映畫などを見せることも餘儀ない次第である。

ただ美望するだけでわいけない。自分にも建設して維持せねばならぬ。けれども、今までの思想でわ、全人類が文化生活を楽しむことわ不可能とされてゐた。不可能でなくても、少數な貴族や富豪の特權階級が壟斷してゐる間だわ、民衆わ飲食の必要にさえも缺乏せねばならぬと思おてゐた。もし此の思想が事實であれば、私も死力を盡くして貴族や富豪の特權階級を攻撃し、彼等が文化生活をすることさえも否定するのであらう。幸わいにも反省してみると、農村部落の人々が共働して共用の文化生活設備を整へるならば、全人類の誰れもが最高文化の圖案形式に於て、あらゆる種類の幸福と光榮を樂しむ得ることが判明した。それならば美ます却つて貴族や富豪の先驅に激勵を感じ、自分だちも共働して最高文化の生活設備を共用に整へよおと發奮せねばならぬ。貴族や富豪わ蘇我氏の如く民衆を虐たげてわいけないが、先驅の實例を示して文化生活に誘う心からの廣い氣持ちで、時々わ自分の邸宅をも開放し、大衆を樂しますほどに美愛の普遍意識に徹底せねばならぬ。

貴族や富豪が文化を獨占し、それを優越に感じて喜ぶならば褊狹意識である。貴族や富豪わ文化に率先して民衆にも樂しい光榮の生活を興える階段の順序として、衆人と共に喜ぶの努力生活をするならば、そこに尊い

彼等の存在意義がある。今まで何に事も判明せず、心ある貴族と富豪が悩んでいた。幸いにも我等の經濟生活學により、農村部落の生活團體を基礎にして、その組合と聯合に擴がるならば、全人類の誰れもが最高文化の安定生活を樂しむ得ることが確定した。まづ日本より貴族や富豪も意識の廣い先驅者となり、大衆の爲めにまた大衆と共に、この美愛眞善の規範社會を實現しようぞ。

教え能わずして由らしめる時代にわ、貴族や武人等の進んだ意識者だけで支配の政治をするほかなかつた。近代となつて彼等知識階級や資本家階級を参加せしめ、立憲議會を開いた。いま新らしく全大衆と共に進む方法が判明した。しかし、全大衆の悉ごとくが意識を進めているのでわらない。大衆のうち中堅先驅者だけが意識を進めている。

普遍意識者階級觀念を超越し、職業利害を離れて共力せねばならぬ。これぞ新らしい時代の根本生活意識であり、貴族や武人や資本家の普遍意識者わ、農牧人や労働者の普遍意識者と同じ方向を見詰めて努力せねばならぬ。上下が心を一にして大善を喜ぶ東洋の理想わ之であり、朝も野も貴賤を通じ協力一致して、貧困のない文化の安定規範生活を、まづ日本に建設して全人類に知らし、自己と人類の人間實質を永久生命にまで完成しようぞ。これ社會生活の根本意識である。

美望したり、反逆したり、ほんの少くしでも癢に觸れる心があれば、斷じて人類の共力一致わできない。常に感激して先驅する意識を燃やさねばならぬ。誤認識者わ心から啓蒙しようぞ。誤認識者わ、上へにも下たにもいる。朝にも野にもいる。それを啓蒙し、始めて人類の共力が實現して、美愛眞善の規範社會が確立する。啓蒙とわ誤認識者を理解さすことだ。これぞ釋迦や孔子や基督の方針であつた。我等も之を根本意識とせねばならぬ。顧りみれば西歐の社會主義思想わ、一部の階級に狭く拘泥し、餘りにも誤まりであつた。

謙遜し推讓し、始めて共力一致ができる。優越觀を斷然と克服し、先驅の意識を燃やさなければならぬ。ほんの少し癢に觸れる氣持ちがあつてもいけない。忠告されると感謝し、どんな場合にも癢に觸つてわいけない。これぞ謙遜であり推讓であり、優越觀を抱く高慢者も、反對に謙遜し推讓されると、必らず反省させられる。だから謙遜と推讓わ、啓蒙の効果ある方法でもある。

共働することわ、忠告されて、注意されて、そのとき、ほんの少くしでも癢に觸れる間だわ不可能である。知つて注意することを注意されても、有りがたく感謝する氣持ちでなければ、共働できない。反對に癢に觸わり、餘計なことを言うな、そんなことわ知つていゝぞ、いやいや、そんな生ま意氣を言う間だわ、斷じて共働できないのである。氣附いていることを注意されると、貴君もそお思ふかと共に喜び、益々心をあわし共力するほどに感激する氣持ちが、愚かに狭い感情を淨化して、純愛の人間性に徹底した、先驅者の普遍意識である。

しかし大衆に、これほど廣い意識を要求しても、期待わ常に裏切られる。特に女性や年少者わ、何んでもないことにも感情を衝突さし易い。そのときに、夫や父や兄が、自分の血縁に加擔して、血わ水よりも濃いななどと、血縁のない者を非難し攻撃するならば、家族と家族との間に垣ができ、部落の融和と共働わ不可能となる。部落の家々が共力一致して、永久に睦ましい生活團體を作るにわ、父や夫や兄が自分の家族を抑える心にならねばならぬ。父が子を制し、夫が妻を制し、兄が弟を制するならば、よし子と妻と弟の方が善く、血縁の遠い隣家の他人が悪くても、子や妻や弟わ父と夫と兄に對し平素より深い恩義から、多少の無理でも心を落ち付けて従うものである。だいたい、善いにしる惡いにしる、癢に觸つて争そうのがいけないから、善惡是非わ第二とし、まづ此の點を注意して心を落ち付けさし、それから誤認識を覺らして、いつも皆の人と共働するよお、それになわ、決して争をおてわならぬ、少くしでも癢に觸つてわならぬと、子にも妻にも弟にも篤と諭とすのである。

反對にもし父が子を助け、夫が妻を助け、兄が弟を助け、善悪是非に拘わらず、血縁の遠い隣家の人などと争うならば、如何なる結果となるであらうか。益々感情が疎隔し、断じて共働し共用する團體生活の規範文化にわ入り得ないのである。子や妻や弟が悪るいならば無論であるが、よし子や妻や弟が善いとしても、父や夫や兄や妻や弟を制せねばならぬ。そのとき、隣家の人々も反省するであらう。たとえ反省しなくても、隣家の父や夫や兄が、また其の子と妻と弟を制するであらうから、推譲の普遍意識が家族と家族のあいだに交流し、永久に家々と人々を睦ましい平安に結び付ける。これぞ、社會生活の根本意識である。

今までの人々逆くことをしていた。子と子が喧嘩するとき、是非を聞かず自分の子に味方して隣家の子を睨らんでみたり、それくらい無難として、もし妻と妻とが争うとき、夫が隣家の妻を叱つて撲ぐるならば、果たしてどんな事になるであらうか。もし斯おした態度を家族主義と思ふならば、それこそ飛んでもない誤認識である。こおした生活態度でわ、断じて部落の平和を保てない。社會生活の根本意識わ、父が子を制し、夫が妻を制し、兄が弟を制するほど、血縁の遠い者え推譲し謙遜しあい、そこに始めて家族を基本としての部落生活團體が確立されて、美愛眞善の規範社會が實現に近かつき、部落の各人わ意識を普遍の方向に擴げる。

隣人の争いわ飲食等の分配問題からも起るが、それ以上に勞働と安逸の關係から起る。或る家族の父と子と夫と妻と勤勉正直であり、緊張し熟練して自分の分擔を勤むのに、他の家族の者わ怠けていれば、避けがたく不愉快が湧き起るのである。もし怠ける家族が假病などの嘘をついて作業を休むならば、共働生活團體の他の家族わ忠告するであらう。その忠告を激勵に感ずる氣持ちとなつたお、始めて美愛眞善の規範が人類大衆に擴がり得る。もし反對に癢に觸わり、何にを言うかと口論でもする狭い氣持ちのあいだわ、断じて共用共働の生活團體わ實現し得ない。そんなに癢に觸わり易い人々の家であら、父と子と、夫と妻と、兄と弟との間柄にも、誤

魔かしと意見の衝突が絶えず、家庭争議の風波が止まないであらう。まづ正直な心となり、互いに責任を果たさないと氣持ちの濟まない高尚な意識に修養せねばならぬ。そして怠慢の爲めに忠告されるならば、よし子や妻や弟が狭い量見から癢に觸つても、父や夫や兄が制して反省さす態度にならねばならぬ。少くなくも人類大衆が此の意識に進み、始めて一致の結合が實現して、美愛眞善の規範社會が開ける。人類大衆が此の意識に進めば、彼等わ自己の人間實質と人間性を見詰めている。人間理學の自己完成わ、生活理學の社會完成と表裏し、唯一存在の兩面である。

怠けてわいけない。怠けるとわ安逸を貪ることである。飲食の類の肉體欲望を満足すれば、美も愛も眞も思はずに、豚か牛の如く怠けて安逸に耽る惰性のあいだわ、断じて文化生活に近かつけない。飲食の爲めの勞働だけでなく、肉體と時間を最有効に役立てて、美愛の文化設備を揃え、また暇さえあれば拭き掃除をして、立派に之を維持する努力の氣持ちとなり、始めて人類わ文化生活に近かつき、肉體欲望よりも美愛眞の人間性が強くなる。それゆえ文明わ餘裕から開けると言うて差支がない。農具なども粗末で技術も拙なく、食糧の生産に逐われて少くも餘裕がない未開時代にわ、文明わ開け得なかつた。農具や技術が進歩しても、生産勞働の餘暇を安逸と怠慢に空費する低い意識のあいだわ、また文明わ開け得なかつた。生産の條件が整ひ、また意識も高く進み、始めて文明が開け、大衆の意識わ普遍の方向に近かついて、安定と光榮の規範社會が實現する。

人類の大衆がみな意識を進めて努力するのでわない。少年わ遊ぶが仕事であるから、少年期の延長を受けて、青年わ男女を問はず遊惰に流れ易い。之を激勵せねばならぬ父兄の任務わ重いのである。父兄さえも往々にして少年期の延長で遊惰に流れ易い。之を激勵せねばならぬ先驅者の任務わ重いのである。そこで自治と言う文字を解釋して、人類の大衆が集まり、ただ平等意見の満場一致や多數決で、諸事を決めてよいと考え違ひしてわな

らぬことになる。自治が此の意味であれば、自治有害悪であり、支配の強制が却つて利善となる。しかし、支配わ貴族や武人や富豪資本家の特権でなく、支配わ指導であり啓蒙であり、身を以つて模範を示す先驅でもあらねばならぬ。げに支配わ特権でなく、先驅の重大使命である。この意味に於てならば、ムソリーニやヒットラーやスターリンの新らしい支配も承認される。彼等の支配わ強力な専制に見えるけれども、過去の専制とわ實質を異にし、農牧人や労働者や、有らゆる職業の中堅先驅者と、心を一にして共力するものであり、露西亞にわ共産黨があり、伊太利にわファシスト黨があり、獨逸にわナチス黨がある。けれども、それらわ政治の形式に偏傾し、人間と社會の實質完成を知らない。階級と職業を超越して普遍意識者わ、人間と社會の實質完成を見詰め、力強く互いに結合せねばならぬ。

中央集權の支配者わ、往々にして統制を重視し、生活單位の完成を忘れる。統制わ中央權力の爲めでなく、中央權力を鞏固にして統制するわ、生活單位を確立して、美愛眞善の規範を實現せんが爲めである。支配わ支配者の爲めでなく、統制わ統制者の爲めでなく、支配も統制も生活單位を確立し、その安定と幸福を擴げて、遂に全人類を人間實質の完成にまで導びかん爲めである。手段わ目的に付いての使命であり、手段と使命を強化して、もし目的を殺すならば、角を矯めて牛を殺すよりも愚かである。

中央集權と地方分權と、そんな言葉の争をいわ無用である。自治でもなく、支配でもなく、ただ啓蒙と指導でなければならぬ。啓蒙と指導も結果を千年の將來に期するわ、全人類に忠實でないから、偽わる者わ實力で強制し、怠ける者わ押えて激勵する。止むを得ず斯く強力に啓蒙し指導することが、支配や強制と見えるけれども、人間性が判明し、社會生活の眞理と最善が確定したからわ、力強い啓蒙と指導わ、規範と完成を促進する爲めに却つて忠實な全人類えの大善である。しかし、人間性を無視して美愛眞善の規範實現を妨害する支配と強制わ、

反對に大善の王道でない非惡であり、希臘や羅馬の征服争覇でしかない。形式だけを見て論議せず、實質を凝視して篤と反省せねばならぬ。

自治でわいけない。そんな生々温るいことを言うていてわ、千年の將來にも斷じて人類の完成と社會の規範わ出現せぬ。偉大な先驅者の強力啓蒙と指導支配の統制わ、人間理學と生活理學から許される。自治でわ生活單位の部落々々に叡智の先驅者が出現することを待望し、その叡智の先驅者も地方分權の支配をしてわいけないから、教え説く説話の啓蒙と指導が、青年初期の部落人にまで善く理解される意識自然の發達を氣長く待たねばならぬ。あゝ、そんな呑氣な待望で進んだ歐米各國と日本ならまだしも、支那や印度や南洋の島々が、果たして幾百千年の後ちに人間と社會の完成を實現し得よおぞや。漫然と自治を説く者わ、人間と社會の實質完成を知らない、形式觀念の遊戯者である。人間實質と人間性を知り、眞理と最善を見詰める新らしい時代の人々わ、まづ生活單位を確認して、自治でない啓蒙組織と指導制度により、生活單位の組合と聯合にまで社會生活を規範づけ、全人類を速かに人間自己の完成に誘わねばならぬ。先驅者の任務わ重い。重い任務と確認を怠つて、消極怠慢の無抵抗や無責任な自治の觀念遊戯に墮落するな。

第六十四章 産業意識

個人の産業經營から團體の産業經營に移つた。資本家の團體産業經營を會社と言ひ、農牧人や労働者の團體産業經營を組合と言ふ。いづれも個人主義から團體主義意識が擴がつたものである。

會社を資本を集めての團體産業經營である。會社設立の動機は、個人の經營で安全に確實な大企業が成り立たないから、資本を集めて株式會社の類を設立し、個人の力に及ばない大企業を經營することとなつた。即ち會社設立の動機は、個人經營の失敗から蒙る損失を避けよとする營利觀念と、産業經營の物理的な必要であり、この觀念と物理が會社を出現せしめたのである。それでも會社を設立する者の意識が狭い利己心であれば、重役その他の従業員が背任行為が潜行し、會社が善い結果を上げ得ない。公私を區別し、利己心よりも廣い清廉な公共心の普遍意識が起らねば、會社事業が決して成功せぬのである。會社を設立する根本の動機に、はや意識が普遍の方向に擴がつたを示し、また會社を經營して成功せしめる間いだに、清廉な公共心が要求されて、意識が益々普遍の方向に擴がるのである。

しかし會社が營利を直接の目的としている間だわ、會社が人類大衆の幸福に役立つのわ、會社の株主が利益を獲得する結果の偶然な副産物であり、人類大衆の利益を往々にして會社企業の爲めに蹂躪される。世界に於ける農村の總疲弊も、會社産業が惹き起こした弊害の最大なものである。けれども、この弊害を理由として會社産業

を破壊すれば、分業と交換の組織に變改された世界農村わ、却つて奈落の底に墜落せねばならなくなる。

一端を見て全體を見なければ、意外の錯誤に落ち入る。會社産業が遂に大きな弊害を露出したけれども、ともかくも會社産業を中心として、分業と交換の組織に發達したから、突然と會社産業を停止すれば、養蠶農家や桑を持て餘し、棉花栽培の印度も、甘蔗栽培の南洋も、賣れない破滅に遭遇して、此等の分業單作農家わ、自給自足を恢復する前えに餓死せねばならぬほど苦るしむである。そしてまた我國の米作農夫をも衣服に事を缺かし、寒中に凍ごえさすでおろす。

再び自給自足を恢復せよと言ふのか。人口の増加した今日と將來でわ、自給自足を恢復することが絶対に不可能であるを繰り返し述べた。人口が増加し、しかも人類が文化の生活を知れば、氣候風土に應じて世界の土地を最有效に利用するほかなく、二度と再び自給自足にわ歸り得ず、どおしても分業による交換の制度を維持して、良品種の多收穫を圖らねばならぬが、しかし永久に會社産業を中心としていていけない。そこで分業と交換を基礎としながらも弊害の起らぬ、眞善の規範經營があるまいかと詮議せねばならなくなつた。我等の經濟生活學篤と之を詮議する。しかし眞善規範の實現にわ、人間學からの深い考察を、人間意識の側より適用せねばならぬ。

會社産業が個人意識を少し進めて、人口の増加に應じ分業し交換することを可能にしたが、會社産業が資本家の營利を動念とする爲め、文明國が未開國を搾取し、商工業が農業を搾取する弊害を招來した。會社産業が過去に於て功勞があつたが、現在でわ弊害が多い。それゆえ會社産業が過渡期に於ける歴史經過の一段階であり、會社よりも優れた加工と交換の合理組織が発見されれば、會社は當然に讓らねばならぬのである。今日の最大問題に實に之であり、之の爲めに共產主義や國家社會主義や産業組合が叫ばれているが、いづれも中途半端のもの

でしかない。我等の厳正な經濟生活學の眞理と最善の規範生活を確立し、農村部落の共働生活團體を基礎として、其の組合と聯合に進展せねばならぬを指示した。

會社産業に代わる眞善規範の組合産業が成立するにわ、幾百年も経なければ満足な整頓を見ないであらう。會社産業でさえも幾百年の歴史を持つてゐる。特別に鋭敏な日本民族の如きものならば、會社産業を數十年の間だけに確立したことであるから、規範の組合産業をも數十年で確立するであらう。しかし、遅れた世界の國々に規範の組合産業を實現せしめるにわ、例とせば支那や印度や南洋の島々にまで部落單位の共働生活團體を設立し、その組合と聯合に發展さすにわ、ただ教えて待望するだけならば、必らず幾百年も長い期間を要することである。それ之餘りにも待ち遠く、それらの民族の人々に氣の毒であるから、なんとかして規範の眞善組織を速く實現する方法あるまいかと悩む。本篇此の爲めに附加された。順序を追い眞善規範の促進政策を考察しよう。

階級を離れ、凡べての人が全人類に寄與せねばならぬ。人間性の普遍意識を、無上大法として斷然かく要求する。資本家と其の團體の會社と雖ども、決して此の人間大法の例外でわあり得ない。會社わ營利觀念を離れて公益會社とならねばならぬ。資本家わ嚴重に之を實行しよう。いやいや、そんな説教わ會社の株主も重役も聞かぬであらう。

人間が豚や牛であれば萬事休す。人間わ叔智者であり、教えれば必らず理解する。資本家と株主の全部が理解し得ぬまでも、頭腦の鋭敏な産業の支配階級と其の子孫に、反省して氣力ある先驅の普遍意識者が必らず現われることである。英吉利にわロバート・オーエンがいた。我國にも數多い人が、その方法を眺めている。しかしロバート・オーエンの社會主義經營わ失敗した。我國の産業意識者わ死後に財産を寄附する程度で、まだ善い方針を知らない。公益會社わ過渡期を二階段も三階段も上げらして、眞善の規範完成を確實に促進する近道であ

る。

身を以つて先づ範を示せ。産業資本家の普遍意識者わ先驅し、始めわ小さいな事業より公益會社を試驗して見よう。その確實な成績によつて、之を諸他の事業會社に廣く實行しよう。政治の方針もまた之を公認し、遂にわ營利會社を禁止しよう。公益會社とわ營利を基本の動念とせず、公益を其のまま目的とする會社組織の事業團體である。

公益會社の株主と經營者わ、人類に良品を安價に供給するを意圖する。しかし、従業者の生活わ保證せねばならぬ。出資者に對しても普通の金利を拂わねば、現代の金融制度が存続する限り、資本家わ公益會社と反對の方角を逃げる。それでわ公益會社より規範に向かう進展が鈍くなる。過渡期に於てわ意識の擴がりかけた人々を成るべく多く規範の階梯に誘わねばならぬから、公益會社わ暴利の配當をせぬけれども、普通金利の配當をする。労働者から高級社員に至るまで従業者の生活を保證せねばならぬ。公益會社でわ會社利益から先づ第一に労働者の生活費を支拂らう。但し労働者に多額を支拂らうならば、人類大衆に良品を安價に供給することができなくなるから、労働者わ生活を保證される程度で満足し、人間性を見詰めて労働者もまた普遍意識に近かつき、世界の農牧人を搾取せぬ清らかな心とならねばならぬ。公益會社の存在わ、資本家と労働者を此の同じ意識に誘う社會制度である。

公益會社わ事業利益の第一支拂を労働者に約束する。しかし、その金高わ低廉である。例えば世界農村の生活費が、平均すれば一家族で月額四十圓とするならば、それを公益會社わ最低支拂として約束する。家族のない單身男女わ最低支拂を低下されるであらう。しかし、勤勉と熟練と緊張を保證する爲め、収入の増加を認めねばならぬ。それでも最高給與わ最低月額の五倍を限度とする。重役も技師長もそれ以上を貪ることわ許されぬ。彼

れと家族わ此の収入の範囲内で生活の安定を工夫せねばならぬ。

月額四十圓で衣食住の一切を支辨できない。そこで會社わ勞務者の爲めに住宅を設けて家賃を不要とする。病院の設備を考慮して醫療の支出を不要とする。學校に關する施設や圖書に關する施設や娛樂に關する施設も考慮し、種々な失費を不要とする。こおしたことに對する費用わ、會社として配慮すれば餘り多額であるまい。これらの設備費わ會社資本で配慮するが當然である。

公益會社わ勞務者に對する生活費の金錢支出と、設備の維持費とを除いた事業利益のうちから、株主に對して出資配當をするが、その額わ普通の金利を標準とする。但し會社事業わ損失することもあるから、銀行えの預金利子よりわ幾分か高くなければ、資本を誘う刺戟とならぬ。株主もまた全人類に良品を安價に供給する公益の根本動念を持ち、普通金利の配當で満足し、餘分な事業利益わ會社の基礎を固める基金に準備すべきである。但し、公益會社の意識が進めば剰餘利益の二分の一わ人間完成と規範社會を實現する爲め、最有效な啓蒙や指導に提供されるであらう。残り剰餘利益の二分の一わ會社の基金として、事業利益が少額な場合の不足を補ない、或るいは會社の施設を整頓するに充用される。

公益會社わ意識の進んだ人々が經營し、そして餘分な利益を準備基金に積立てることであるから、會社事業に失敗わなく、必らず成功して好成绩を示すであらう。だから勞務の従業者も生活が安定して、低賃銀で不平がない筈である。また出資の株主も、缺損のない安全な配當が期待できるから、多額の配當がなくても満足し得られよ。ことに其の事業わ良品を安價に供給する使命を遂げて、會社事業に關係する者わ人間性の普遍意識に良心からの喜びを覺えるのである。幸わいにも資本家階級の全部が此の方向に進むならば、げに人類の大きな幸福でわないか。病院の如き慈善の機關わ、まづ第一に此の方向に進まねばならぬ。そのとき、どんなにか人類

わ幸福であらう。

それでも、經濟わ世界に共通しているから、製造品にわ市場の標準相場があり、それ以下に安く販賣する必要わないのでないか。よし市場の相場より安く販賣しても、その利益を何ん人が取るであらうか。會社の製造品わ問屋や小賣商人の手を経て消費者に渡されるから、公益會社が製造品を特別に安く販賣すれば、その利益わ問屋や小賣商人の私腹を肥やすことにしかなるまい。それでわ公益會社の配慮が無効となる。

紡績系や生糸の如き原料の製造品でなく、直接生活の日用品を製造する公益會社ならば、ことに石鹼やインキや藥品や嗜好品や書籍の如く定價を公表して販賣するものに付いてならば、良品を安價に供給することが即刻できる。そして良品を安價に供給することが一般に判かると、公衆の需用が多くなるから、大量生産によつて生産原價が低減せられ、公益會社の利益わ一層多くなるであらう。それでも勞務者と株主配當わ制限されているから剰餘わ積立金として設備を改良し、殆んど無利息の資金で經營する結果となり、また設備の改良わ更らに生産原價を低減せしめ、愈々公益會社をして確實な事業主體の巨大なものに築き上げる。そのとき他の營利會社もみな公益會社と同様の經營にせねば立ち行かぬことを發見し、ここに人類の大衆意識わ公益會社を通して、二階段も三階段も急速に進みだすのである。

紡績系や生糸や紙などの原料品を製造する生産部門でわ、公益會社の意識で良品を廉價に供給しても、その利益わ人類の側わに向かわず、問屋や他の製造會社が壟斷するであらう。それで、この種類の生産部門の公益會社わ市場價額で製造品を販賣するけれども、そこに生ずる利益の一半を公益事業費に振り向ける處ろに、公益事業會社の特色がある。また會社の積立金で直接生活の日用品を製造する子會社を設立し、年々と事業の種類を擴大して、この子會社が良品を安價に供給するならば、原料製造會社も製造原料を安價に子會社え送り、そこに大き

な公益組織の傘形財閥を形成して、顯著な規範確立の促進を全人類に寄與することになる。

原料品を製造する公益會社わ良品を安價に供給しよとおするけれども、市場組織が改まらぬ間だわ、人類大衆に安價な良品を供給することができない。けれども、直接生活用品を製造する公益會社が多數に設立されたときわ、一般の市場を経ずに、製造原料を此等の公益會社え安價に供給することができる。それによつて、著るしく産業組織わ革新され、この方向が開けるに従がい、公益會社わ幾階段も人類歴史を迅速に高く上昇さすであら。但し他の營利會社より種々な非難や妨害が来るかも知れぬが、それわ却つて社會の輿論と批判を刺戟し、それこそ人類の大衆意識を非常に早く進める原動力ともなるお。

公益會社わ國內關係に於て餘り著大な普遍意識えの促進とならぬかも知れぬが、國際關係に於て恐ろしく大きな原動力の影響を與えることになる。私が過渡期に公益會社え期待する處ろのものわ、國內關係に付いてよりも國際關係に付いてであり、現在の最大問題わ、英米佛の如き搾取する資本主義の文明商工國と、支那や印度や南洋の如き搾取されて氣の毒な未開の農業國との間だに、如何にし國際正義の人道を疏通せしめるかの根本方策である。

これわ武力に依つて、例とせば露西亞や獨逸や伊太利が英米佛に血戰を開始しても實現することわ不可能であるから、國際間の經濟努力に依るほかないを意識した。バルカンに幾度か危険の烽火が燃えつゝも、各國わ自重している。戰爭によつて英米佛の經濟地位を奪うわ不可能に近かい。可能でも人類として最も悲惨であり、他に方法があれば必らず戰爭わ避けなければならぬ。他の方法とわ、日本の如き新興産業國が公益會社の意識に立つて、國際經濟の革正に努力することである。それにわ政治上の共力もいるけれども、ともかくも我國の産業資本家が公益會社の基礎認識に立ち上がり、労働者も技師も俸給吏員も同じ氣持ちとなつて、勞資が協力一致して

良品を安價に供給することを開始すれば、英米佛等の高度搾取の文明國が市場を維持するにも、また公益會社の方針の下に資本家の利潤を低下し、労働條件を改めて労働者と俸給生活者が世界標準の低収入に満足せねばならなくなる。それわ彼等の生活に取り突然に起るならば激變を生ぜしめて耐えられないであらおが、我國の公益會社も急に發達せぬであらおから、國際の正義人道が何にかを我國より絶えず放送啓蒙して、徐々に彼等の世界誤認識を訂正しつゝ、我國の公益會社を確實に進めて、十年二十年のちに其の良品を普ねく世界の全市場え安價に提供することせねばならぬ。それによつて、世界全人類の生活規範と人間完成の意識鍛錬わ非常に速く進められ、そこに始めて世界の農村わ復活して、都會にも失業者のない不況解消の安定が輝やき渡るであらお。

國內關係に於て公益會社わ、眞善の最後規範に進む終局の役割を爲さぬ。國內關係に於て眞善の最後規範を確立するものわ、農牧部落の共働生活團體と其の組合聯合であるを、我等の經濟生活理學わ詳しく記述する。眞善の最後規範わ農牧部落を基礎單位とするが故に、都會の産業資本家が如何に純美純愛純眞の普遍意識に自覺しても、商工業の都會から最後規範を實現することわ不可能である。しかし都會の商工業資本家わ最後規範を仕上げる前に、それに進むに必要な幾段階もの順序を整える重大役割を受け持つ。

最後の仕上げをする者が貴といのでわない。必要な順序の階段を準備する者が却つて貴とい。いやいや貴といとか貴とくなくないとか、そんな優越觀の争そいをしてわいけない。人類の誰れもわ、それその立場から分擔して、必要な役割の責任を盡くさねばならぬ。仕上師ひとり貴とからず、旋盤師も製罐師も鑄物師も運搬夫も採礦夫も悉ごとく分擔の各段階人がみな必要で貴とい。

斷じて優越觀に捕われず、人類わみな地位と職業と能力に應じて各自の分擔を完全に盡くさねばならぬ。眞善

の最後規範を建設する役目わ農村人が擔當し、そこに向かう必要な順序の段階わ、公益會社を通おして商工都會の資本家と労働者が分擔せねばならぬ。政治家や文藝人や教育者等わ、周圍から之を督勵しまた指導するであらお。

農村人わ眞善の規範を確立する建設を分擔するけれども、過渡期の營利資本主義を修正し訂正することに付き遅鈍である。その役目わ意識を進めた商工都市の資本家と労働者に期待せねばならぬ。特に國際關係に於ける英米佛の如き強大搾取の資本主義を反省さし、彼等も優越地位を拋棄して、支那や印度や南洋の島々の如き疲弊農村の諸民族を救うにわ、どおしても都市産業の公益普遍意識に待つほかに、效果の多い方法わないのである。全人類わ朝野を擧げて上下一致し、都會人もまた農村人も心から同じ方向を見詰め、總奮迅に全努力せねばならぬ。

世界を美愛眞善の理想郷にすることわ、げにも長い人類の希望であつた。この希望わ長いこと見詰められたけれども、方法が全たく不明であつた。いま其の方法が判明した。全人類わ希望を持ち根氣よく努力しよおぞ。また今までわただ罪惡の搾取者でしかないと思われた資本階級わ、過去に於て意識と文化を幾段階も進める功勞者であつたことが判明した。そして彼等にわ、營利意識を公益意識に變更することによつて、ほんの少こしばかり彼等の努力の方向を訂正することによつて、人類の意識と文化を幾段階も更らに大きく進め、日本と世界を眞善規範の美愛完成に誘うに付いて、非常に大きな重要任務が殘されていと判明した。資本家階級こそ、公益意識に進むならば、げに貴とい先驅者である。過去の功勞に累加して、國際經濟の訂正にまで非常に大きな努力をし、人間としての存在意義を最有効に役立てよおぞ。かく自覺して努力するなら、資本家わ斷じて搾取者でなく、眞善規範の美愛社會を完成する最大の功勞先驅者である。しかも此の努力わ産業經營の意識だけを、人間の自己完成に必要な、美愛眞の普遍方向え、ほんの少こし轉向させればよいのである。それしきのことが優れた富豪や資

本家に出來ぬとゆうのか。時代わ今や非常時である。何時までもただ搾取し、日本と世界を益々行き詰まらしてよいと思ふか。人間であり、人間性と良心を持つ以上わ、人間實質の自己を完成し、大宇宙の永久生命に解脱する爲め、富豪も資本家も斷然と營利意識を公益意識に轉向させねばならぬ。例外のない人間無上の大法が、卑怯に逃がさず、かく嚴命する。

労働者大衆よ。何時までも階級闘争の誤まつた西歐人の誤認識に指導されているならば、汝等もまた世界の農村人を搾る罪惡の餓鬼であるぞよ。公益普遍意識に覺醒し、疲弊して苦しむ世界の農村人の生活を思いつつ、生活の保證と安定を與えられるに満足し、公益會社の自覺した資本家と協力して、良品を安價に全世界へ供給しつつ、疲弊した農牧の全人類を慰さめ、逆か立ち思想で誤認識している歐米労働階級にも反省を促がし、完成普遍意識に自己を鍛錬しつつ、労働者としての存在と任務を最有効に役立てよおぞ。

労働者のうち意識に強い先驅者わ、營利で餘念のない資本家を反省させよおぞ。自己階級の利益だけを争そう労働組合と労働争議わ醜い。しかし労働者が人間性を見詰めて眞理と最善の完成社會を念願し、労働者の立場から資本家を反省に導びく爲め、労働組合や消費組合を組織するならば、非常に貴といことである。無自覺な資本家が壓迫すれば、そのときこそ人類正義の促進を守り、自己にも不利益な争議を起すも大きな努力と緊張である。正義に組みして完成の爲めに戦かうわ、罪惡でなく許される。けれども、公益意識の資本家とわ決して争わず、温たかく勞資協調の共力をせねばならぬ。

農牧人わ立場を異にし、戦かう對立の關係におらぬ。農牧人の任務わ全たく別であり、靜かに大地を踏み占めて、部落單位の共働生活團體と組合を總聯合にまで建設することが、農牧人に貴とい分擔の任務である。建設のみが農牧人の任務であり、まづ啓蒙し傳唱し、部落の農牧人わ地主も小作人も共力一致して、眞善の最後規範を

美愛の終局完成にまで進めねばならぬ。労働者と農牧人とわすく別々に任務を分擔しつゝも、同じ規範の確立を思うところに、都會と農村の一致があり、労働者と農牧人の提携がある。

702

知識階級に屬する種々な職業の人々、教師ならば此の方向に子弟を教え、醫師ならば公益病院を設けて仁術を施し、著述家ならば逆か立ち思想を驅逐して人間と社會の完成を文藝にも思想にも發表し、官公吏もそれの立場から除々に法律や行政を改善して大衆を指導し、各階級の各職業人わ誤解しあわず、共力一致から根氣よく盡くさねばならぬ。日本と世界の普遍意識者わ眞善運動の完成主義を見詰めて、堅く固く總結合しよおぞ。

第六十五章 政治意識

今までの主義や思想や哲學で判からぬことが、人間學に依つて悉ごとく判明した。資本家と労働者が階級闘争をして、それによつて社會と人類が幸福になるのでわぬ。地主と小作人が階級闘争をして、それによつて規範社會と人間完成が實現するものでもない。政治についても、支配階級の特權擄取の優越者とする統制わいけな。けれども、無政府主義者などの言うが如く、男女・老幼・賢愚に一人一票の資格を與えて、満場一致や多數決の自治をさしてもいけない。或る民族だけを幸福にする國家主義もいけず、生活單位と民族を無視しての人類運動が確立し得るものでもない。唯一の方針わ普遍意識者が各民族の部落々々に起こつて、まづ自分の部落を立派なものとし、その組合と聯合を民族に擴張、身を以つて範を示しつゝ、之を世界各國の諸民族に誘わねばならぬ。中心と先驅の實例を示さず、雲の上から理窟だけの正義人道を放送しても、それわ口辯念佛か形式題目に過ぎぬ。

政治意識に付いても、今までわ非常に多くを誤解していた。例とえば國家社會主義などと稱して、露西亞の如く國家の吏僚が商工業その他の産業を經營せねばならぬと思ふ誤認識が、相當に擴がつている。之わ非常に大きな誤認識である。

生産わ人間生活の必要手段であり、農業にしろ、工業にしろ、また交換にしろ、人間生活の必要な勞作であつ

703

て、全人類の誰れもが平等の責任として、何ん人も忘れてわならない使命の任務である。それを國家の吏僚がやつて呉れると言うのか。いやいや、國家社會主義を妄想する者わ、吏僚が汗を流し膏を絞つて民衆の爲めに生産の努力をしてやると言うのでわなく、國家の吏僚が經營を指圖する地位にだけ坐わると言う誠に蟲のよい考案をしている。

それでわいけない。そおゆうことをしていると、鐵道省の吏僚が鐵道だけの利益を主張する如くに、また學校の教師が必要がなくなつても自分の失業を恐れる狭い意識から學校の廢止に反對する如くに、部門々々の吏僚が偏狹な職業意識を出して、民族と人類の一般公益から無頓着になる恐れがある。そんな危険なことを主義や思想に描く國家社會主義を斷じていけない。

國家の吏僚を補佐する中心指導者であらねばならぬ。この貴とい任務を忘れて民衆と同じ地位に立ち、しかも自分わ汗と膏の勞働をせず、技術や事務の高級勤勞を獨占して搾取と見えることをするならば、それこそ非常に大きな人類生活の攪亂と破壊である。國家の吏僚は民衆の地位に落ちず、民衆を搾取せず、民衆の生活に食い入つて民衆の努力を妨害せず、人間實質と人間性を啓示しつゝ、眞理と最善を固持して、民衆を啓蒙し指導する貴とい任務を忠誠に盡くさねばならぬ。

國家と其の吏僚が商賣をしてわいけない。國家と其の吏僚が工業をしてわいけない。もちろん農業ができる筈もなく、鐵道や交通設備を運轉し、銀行營業をすることさえも過渡期の變態であり、國家と吏僚を啓蒙し指導し監督する主權の貴とい機關であらねばならぬ。農業し工業し交換し運搬することわ、人間が自己を完成することと同様に、民衆自身の生活動作であり、斷じて之を國家と其の吏僚が代辨し得るものでわかない。

如何なる國家萬能主義者でも、國家と吏僚が民衆に代わつて飲食してやることわできない。國家と吏僚が民衆

に代わつて自己完成するのでもなく、修養し鍛錬するのでもなく、同じ道理で、國家と吏僚が民衆に代わつて農業や工業や交換や運搬をしてやれる筈のものでわないのである。なにを逆か立ち顛倒して、國家社會主義者らわ愚かな夢を見るのか。

露西亞の如く國家社會主義の夢を見る者わ、資本家の營利會社が大きな富を積み上げて、重役や高級社員が國家の吏僚以上に高い月給を取るところから、それを國家の吏僚が羨望して、鐵道の如く凡べての産業のうちの儲かるものを、國家吏僚の支配にしよとしたのでわかないのか。いやいや露西亞に於てわ、それほど悪いことを考えておらぬ。もし勞働者が自治の組織で營利會社の經營を資本家の手より奪うならば、勞働者から成る歐米各國の都會民衆に大きな幸福が來ると夢みたら、共產社會主義が都市勞働者の間だより叫ばれた。けれども、今日の經濟組織が複雑であり、簡単に會社事業を勞働者の自治に移してみても、何に事も最善にわ進行せぬ。露西亞よりも伊太利で、そおしたことを實行しかけたが、事實わ完全に裏切られ、伊太利にわ違がつた形ちの政治と經濟が、ムソリーニに依つて行なわれている。露西亞でも勞働者の自治産業でなくて、スターリンを中心とする共產黨の支配が、國家社會主義にも似たものを實行せねばならなくなつた。

勞働者の自治産業を成立し得る筈がない。産業にわ種々な部門があるけれども、それが獨立に分かれて、それの從業勞働者が自治の勝手に經營し得るのでわなく、凡べての産業わ民族と全人類の必要な生活手段でしかないから、がんらい全民族と全人類の爲めに經營されねばならぬものである。それを産業各部門の從業勞働者が、勝手な自治の狭い職業階級意識で經營したいと思ふのが、そもそも大きな誤認識の逆か立ちである。經濟生活理學の眞理と最善わ、人間理學の普遍意識と表裏して、こおした偏頗の主義と思想を拒絶する。

勞働者の自治産業を夢みる誤謬わ、農村に於ける自給自足の自然自治にも近いものを憧れる時代誤謬に共通

する反動思想である。人口の稀れた昔なら、部落々の住民が家々に分かれて、家族単位の自給自足をし、製造と交換のない貧弱な生活をすることもできたが、人口が増加すると生産条件の自然が自給自足を許さぬ場所にも住まなければならなくなり、そして人間意識が美愛眞善の幸福な文化生活を知るに及んで、二度と再び野獸より僅かに遠がう貧窮粗野な自然自治の自給自足にわ歸えれなくなつたのである。工場労働者が自分ら労働者だけの自治で働らく工場を勝手にしたいなどと望むわ、農村に自然自治の自給自足を思うほど古るい反動の時代誤謬である。

都市の商工業を中心とする近代資本主義が大きな弊害を暴露すると、なにか善い方法あるまいかと古るい歴史を探がすわ人情である。この探査の目に付いたものが、原始共産や自治部落であり、之を工場や鑛山に當て彼めたものが、歐洲社會主義の搖籃となつた労働者の産業自治である。しかし時代わ激變して複雑な製造と交換の世界經濟となつたので、原始共産の部落自治や、労働者の産業自治が實行できるものでわない。

農業わ生産条件の優れて善い處るならば、自給自足できないこともない。しかし製造工業の類わ交換を条件とする産業であり、原料を農村より取つて製品を農村に與える交換なしにわ、決して成り立ち得ない人類生活の部門であるから、理論に於て従業労働者の任意な自治により、其の工場や其の産業を經營し得る筈わない。分擔し分業して經營される一切の産業わ、必らず全民族と全人類の必要と幸福の爲めに經營されねばならぬから、製造と交換の管理わ、全民族と全人類の全生活から慎重に考察した眞善規範によつて、嚴重に指導されねばならぬのである。此等の産業労働者わ熟練し緊張しての一日労働に對する報酬が、全人類の平均生活程度を彼等に保證するを以つて満足し、それ以上のものを要求するならば、許されない偏頗の罪惡である。人間理學と經濟生活理學わ、斯く啓示して斷然と労働者の産業自治を否定する。労働者の産業自治と同じ理論の基礎に伸び上がる共産社

會主義も、もちろん否定されるのである。

各部門の産業わ民族と人類の團體組織によつて統制されるを理論の根本とする。全體組織わ民族と人類の全體生活から慎重に考察し、眞理と最善が何にであるかを發見しつ、嚴正に此を維持すべきであり、此の全體組織の中心に國家の政治權力があらねばならぬ。これぞ搖るがない政治意識の最根本である。

労働者の自治産業が不可能であることを發見したとき、國家吏僚の手によつて製造と交換を經營せんとする國家社會主義が主張され、露西亞でわ共産主義の名に依つて之を實行している。けれども結果わ善くない。しかし露西亞の共産主義わ、國家吏僚が労働者と同じ報酬しか受けていないので、まあ、どおにか遣つて行けるのである。もし或る國家が現在の營利會社の重役や高級社員の地位を奪い、それ以上に高報酬を吏僚に授けて、吏僚萬能の國家官僚産業主義を、國家社會主義の美名の下とに斷行するならば、なんと其の民族の禍わい著大なことよ。幸わいにも、それほど惡い政治の國わ、まだ世界の何處にも出現しない。斷じて、それほど惡い政治と産業を、我が日本の君子國に希ごおてわならぬ。國家社會主義わ共産の名の下とに於ても吏僚の名の下とに於ても、決して許すべからざる人類最大の禍わいである。

國家の吏僚わ忠誠でなければならぬ。忠誠とわ劍・鏡・瓊を見詰めて、純美純愛純眞の人間性を鍛鍊する自己完成に民衆を導びき、眞理と最善を固執して、規範社會の完成に努力する事であり、これげに貴とい國家主權の任務である。主權わ動搖せず、主權者と其の吏僚にわ魏然たるものがなければならぬ。身を以つて範を示すとわ、國家の吏僚が商工業の經營を指圖して高報酬を食はり搾取をする意味でなく、眞に身を以つて範を示すのならば餘暇にわ農耕し、朝廷に出仕すれば、心を碎いて啓蒙と指導に當たり、報酬わ農牧者の平均收入に安んじて、その低い報酬にて家族生活を整のえ、朝夕の拭き掃除も自分から率先し、可能な美愛眞の實生活を見せねばなら

ぬ。これぞ日本魂の身を以つて範を示す先驅意識である。之に反し國家社會主義わ、國家が産業を經營すると言
うけれども、吏僚が勞働するのではなくて、吏僚わ如何なる形態の國家社會主義に於ても、單に計畫し指導し啓蒙
し監督するだけである。しかし、それでわ監督地位と執行地位とが混同されて、指導し監督する政治權力の固有
機能を忠誠に發揮し得なくなる。國家機關わ斷じて産業せず、ただ忠誠に眞理と最善を表示して指導し監督せね
ばならぬ。

言行一致するを忠とゆう。歪がまない中心の誠意をも忠とゆう。吏僚わ忠誠でなければならぬ。これ政治意識
の基礎であり、吏僚忠誠の政治意識を、國家社會主義などと稱して、國家の吏僚が商工の營業をすることだと、
逆か立ちの脱線を誤認識してわいけない。國家の吏僚が商工の營業をする思想わ、斷然と古來より東洋にない西
歐近代の錯覺主義である。

國にも世界にも社會にも中心がなければならぬ。中心わ人間性と眞善規範を見詰め、周圍の大衆わ怠たらず努
力するであろお。また基礎のない漠然とした人類運動わ、決して成立し得るものでない。主權と吏僚の政治意識
わ常に社會の中心となり、また人間と社會の完成基礎ともなつて、確認と啓蒙と指導と監督を忠實に盡くさねば
ならぬ。これによつて、部落單位の組合と聯合が、まづ農業を整のえて一切の加工と交換に伸び、自治と統制が
融合して、眞理と最善の規範社會が出現する。

監督者が營業してわいけない。國家社會主義の缺點が此にある。監督者わ立法者であり、司法者であり、啓
蒙しまた指導する行政教育者であらねばならぬ。監督者にわ實力がなければならぬから、軍隊と警察の必要もあ
る。懲治場の必要さえもある。これぞ國家と吏僚の忠誠なる任務であり、西歐近代の誤謬政治思想に禍わいされ
て、國家社會主義や助長行政の名に隠れ、監督と指導よりほかの營業などをしてわいけない。

今までわ餘りにも明瞭なことが判からなかつた。資本主義で行き詰まるにつれ、右翼や左翼の主義と思想が、
ああでもない、こおでもないと甲論乙駁し、飛んでもない國家社會主義などの迷論が飛び出した。天照大神いら
いの政治意識を思い返えし、また堯・舜・周公・孔子わ何に行ない何にを説いたかを顧りみて、西歐舶來の逆か立
ち誤認識を清算せねばならぬ。

國家主權と吏僚わ主要任務として、人間實質と人間性を確認し、民族と全人類を普遍意識の自己完成に導びか
ねばならぬ。釋迦も基督も此の方向を取つた。教育と善導こそ主權と吏僚の最大任務である。この任務に付いて
わ、繰り返えし述べない。

國家主權と吏僚にわ、非常に大きな任務が新たらしく起こつた。自給自足の昔にわ必要がなかつたけれども、
複雑な分業の交換經濟となり、今日でわ非常に重大な新任務となつたものがある。それわ眞理と最善の規範生活
を促進して確立さし、十分に之を擁護することである。それには部落生活團體の共働農業を指導し、その組合と
聯合を實現せしめて、加工と製造と交換と交通や運輸の一切産業をも其の管理に移し、其の後に於ても此等産業
の運用が誤まられないよおに、嚴正な監督と指導をせねばならぬ。

規範社會を確立して、その産業を指導する任務わ非常に重い。立法と司法と行政と教育と、また壯丁を預かる
軍隊までも共力せねばならぬ。過去にわなかつた非常に重大な新任務が、主權者と吏僚に背負わされたのであ
る。脱線して國家社會主義などと、飛んでもない強慾の方向え墮落してわいけな。

過渡期に於てわ、即ち眞善の規範が實現するまでの過渡期に於てわ、營利資本主義を修正して公益會社に向
かわし、商工業の缺陷を改めなければならぬ。之に付いてわ、實力により營利會社の誤認識を訂正せしめねばな
らぬこともある。げに主權と吏僚の任務わ重。

主権と吏僚の監督者であり指導者であるから、政治意識の根本に忠誠がなければならぬ。賄賂を受けるならばこの忠誠が完全に破壊される。監督と指導が厳正であるほど、不正を爲す者も賄賂を送る。賄賂を取つたら萬事休す。賄賂を取つたら、斷じて指導と監督の忠誠を保たれない。政治が亂れるのわ、古來より賄賂に原づく。賄賂と收賄を必らず嚴禁せねばならぬ。立法と司法と行政とに、政治の權力を對立せしめたことわ、この意味に於て誠に重大である。賄賂が行こなれるあいだわ、司法官が最も意識を鮮明にし、徹底的に不正を糾弾せねばならぬ。警察と懲治場わ此の爲めに必要である。

殺人や強窃盜など、あまり大きな問題でない。監督する吏僚に腐敗があれば、眞理も最善も滅茶苦茶になり、規範も奈落へ轉倒する。賄賂こそ最大の罪惡である。贈賄者と收賄者とわ徹底的に一掃せねばならぬ。これ政治の監督であり指導である大本が確定する當然の結果として、罪惡中の最大なものを贈收賄であると、判明に意識せねばならぬ。之に比られば、殺人や強窃盜などの變態心理者も寧ろ憫れみ、懲治場よりも孤島の樂園にでも送つて靜養さすがい。

賄賂に關する史實を一つだけ語る。我國が三韓を失のおた原因の一つに探湯とゆうことがあつた。それわ、民事などの訴訟を起こす者があれば、法廷の大釜に熱湯を沸かして置いて、熱湯の中かえ手を挿し入れさせたことである。もし訴訟が正しければ、熱湯に手を入れても焼けないぞと神前に誓盟さし、熱湯の中かえ訴訟人の手を入れさせた。熱湯のことであるから、どんな正しい善人の手でも焼け爛れさすに決まつている。それを見た收賄吏僚わ、目を怒からして汝わ偽を言うたと大釜の中かに打ち込む。こおしたことを探湯とゆうのである。それわ惡い事をする奴わ、あらかじめ役人に賄賂を送つてあるので、原告が訴え出ると、被告を取調べるにも及ばず、探湯と稱して原告を熱湯の大釜に叩き込んだのである。かかる收賄を國家の吏僚がして、はたして民族

生活わ安泰であり得るのか。三韓の吏僚を恨み、遂に日本から離れたのである。

今日でわ探湯ほどの非道なことわなくなつたが、すいぶんと官公吏僚が收賄している。それでわ斷じて人間性と眞善規範を實現に誘うことができない。啓蒙し監督し指導する主権の吏僚わ、政治意識の根本を忠誠と清廉に置かねばならぬ。

政治が主権者や貴族の優越觀満足の手段であれば、たよえ佛蘭西の閣僚がスエズ運河の株券を賂賂されて其の會社の大株主となり、また何處から如何ほど收賄しても、悉ごとくみな支配者の役德であるとして有りがたい特權を謳歌しうる。しかし、政治わ社會と人類を規範の完成に導びく貴とい使命の分擔であると判明すれば、政治意識の根本わ收賄しない清廉の忠誠であらねばならぬことが、いとも嚴肅に確定する。純美純愛純眞の普遍意識を民族と人類の自己完成に教え、眞理と最善の規範を社會生活の完成に指導する者わ、身を以つて清廉潔白な純粹普通の意識を光り照らさなければならぬ。

政治家わ往々にして徒黨を組む。それわいけない。その一種に政黨がある。これもいけない。今までわ人間性が暗らく、眞理と最善も判明しなかつたから、同じ思想の者が團結し、その團結の威力によつて政治を動かす方便を取つた。政黨わ斯おした團結の一種である。けれども、人間性の自己完成が判明し、社會生活の眞理と最善も判明したから、もお徒黨を組み實力で要求することわ許されなくなつた。實力わ國家主権のみが持ち、軍隊と警察のみが實力機關であり、その他に斷じて實力を持つ者が有つてわならぬ。しかし、之わ理想であつて、過渡期に於てわ、國家と吏僚や軍人等が人間性を知らず、眞理と最善にも暗らいから、止むを得ず意識の廣い者らが團結して、實力示威の對抗をせねばならぬでわないのか。こおした考察もなお西歐社會運動の誤謬である。誠心誠意、どこまでも人間性を述べて眞理と最善を説け。本統のことを本當に説けば必らず了解されるから、

眞善運動の完成主義者わ、身を殺して仁を爲す古聖賢の心となり、飽くまでも人間性を述べて、眞理と最善を説かなければならぬ。述べても説いても判からぬほど、鈍い豚や牛の存在が人間ならば仕方ないけれども、人間わ良心を持つ叡智者であるから、荒野に叫ぶヨハネの態度で熱心に説き続けければ、主権と吏僚わ必ず了解するであらう。もし誤解されて殺されるならば、人事を盡くして天命を待つ。ヨハネも基督も殺されたが、それでも殺す者が遂に反省し、人間性わ必ず太陽の如く輝きだし、眞理と最善わ明月の如く照り渡るであらう。普遍意識者わ根氣よく述べ且つ説いて、大衆の意識さえも其の方向に緊張さし、四方八方から聲を揃えて説きたるとき、主権と吏僚わ必ず了解するであらう。普遍意識者徒黨を作つて反逆せず、大衆の意識を啓蒙し、輿論を正しく誘うに努めねばならぬ。吏僚啓蒙と指導を分擔の職業任務とするが、野に叫ぶ先驅者わ之を奉仕の人類使命とする。吏僚が賢明であり、野に叫ぶ先驅者の聲に和するならば、上下と朝野と、即ち心が一になつて、美愛眞善の規範社會が、著じるしく速かに完成の方向え進むのである。

朝と野と、上下が心を一にすれば、生活環境わ速に淨化される。それにつれて人類の生活にわ不安がなくなり、各人わ自己完成の方向を見詰めだすのである。之に反して、政治意識が暗く、ただ民衆の自治的努力に放任されるならば、動植物の改良に人爲淘汰を加えない自然進化を待つにも似て、國々の生活環境わ容易に淨化されぬであらう。それゆゑ、政治の吏僚が先づ普遍意識に進んで、人間性に基づく眞理と最善の方向に大衆を指導し、その指導の聲に和して大衆が根氣よく努力を続けるならば、なんと幸であることよ。

吏僚が普遍意識者であれば、彼等わ必ず地位と職業の分擔に拘わらず、精神體の人間實質にわ階級の區別がないことを反省し、なによりも全民族に普遍意識の擴がることを喜び、禹の如く眞善規範の輿論を聞いて禮拜するであらう。彼等も中堅となつて、民族の普遍意識者總會を開き、吏僚より進んで正しい輿論の一致を企圖し

よおぞ。それによつて上下わ心を一にし、民族の生活規範わ廣く感化の波動を世界の國々に傳え、全人類と其の社會を完成に誘うであらう。日本と世界の普遍意識者わ、協力一致して總努力せねばならぬ。

普遍意識者の結合わ政治團體でないけれども、また實力を持つ運動團體でないけれども、人間實質と人間性を見詰めて、社會生活の眞理と最善を固持するから、結局それが政治意識となり産業意識となり生活意識となり、思想となり主義となり教育となり宗教ともなる。吏僚も資本家も農牧人も労働者も、職業を問はず心一つにするならば、遂に政治と産業と生活の一切に普遍意識が徹底し、政黨に代わり、民族と人類の中心意識の源流となる。萬國の普遍意識者が遂に總結合すれば、同じ意識が異民族に通い、大洋と沙漠を超えて全世界に通い、遠からず人類と社會の完成が實現する。

政黨わ遂に無用である。普遍意識者の結合が民族に行き渡れば、政黨わ完全に無用となる。普遍意識者總會を政黨と見れば、一民族一政黨であり、世界全人類一政黨である。そのときに始めて世界の平和が實現する。普遍意識者總會を政黨と見てもよい。しかし、實力を以つて要求しない。權力を握つて政治するを求めない。實力わ國家主権のみが持ち、立法と司法と行政わ主権の下に吏僚が掌どる。普遍意識者總會わ各階級の各職業人を網羅するから、權力を握つて政治する必要わない。權力を握つて政治するほど強力なものとなれば、各民族の吏僚をも網羅しているから、やぶばり吏僚に政治することを分擔さしてよい。普遍意識者總會わ政黨でないけれども、政黨に代わり、政黨よりも有力なものである。それと同時に修養の團體であり、思想の團體であり、産業の團體であり、藝術の團體であり、宗教の團體であり、凡べてのものを凡べて指導する。

立法議會わ無用でないが、單に主権の諮問機關であるに止まる。吏僚の中央官廳を内閣とゆうもよい。それわ主権者に屬し、民衆や議會に屬するものでない。主権者唯一であり、誰れに屬するやら判らないよおぞわ、國

わ亂れ社會を動搖し世界も安穩でない。主權の所在わ、いとも確實に判明ささねばならぬ。民衆が主權者でなく議會や政黨が主權者でなく、議會わ主權者の諮問機關であり、中央官廳の内閣わ主權者に直屬する。

立法議會わ諮問機關としてなら存在してよい。議員わ諮問の可否を答えるだけだから、行政や司法の政治に干與してわならぬ。議會の議員わ内閣大臣や吏僚を兼務することが禁止される。諮問機關が行政吏僚となり得るところに、今日の議會わ弊害を生じた。議會わ飽くまでも忠誠に諮問に答えるだけの職分を守り、斷じて行政と司法の政治吏僚と混雜してわならぬ。

民衆より議員を選擧さして、立法の諮問に參與さすのわ、人間性に基づく眞理と最善の認識に誤謬があつてわならない慎重な用意からであり、決して各階級人の利益を代辯せしめる意味でない。今日の立法議會にわ此の根本に大きな誤認識がある。政黨とゆう存在も、こおした誤謬に基づいて、二大政黨の對立や、多數小黨の分立などを是認してきた。思えば悉ごとく誤まりであり、諮問機關が黨派に分かれて議員の争奪をするなど、とんでもない錯覺の誤認識である。

しかし今日の如く政治を無限に擴大して、種々な助長行政の名目に隠れ、民衆自身の生活や産業の經營なども政治と誤解して、吏僚の数が徒らに多くなり、租税の負擔が非常に重い時代にわ、變態政黨による變態議會の存在も餘儀ないであらう。けれども政黨と議會によつて吏僚の數わ減ぜず、租税の負擔も輕くわならない。此等をも修正して司法と警察の本來政治に還えし、吏僚の數を減じて租税の負擔を輕くする原動力わ、普遍意識者の總會が吏僚の間だにも擴がり、吏僚自身が反省するを俟たなければならぬであらう。ともかくも普遍意識の徹底わ政治を本來の姿に返えし、社會生活を部落生活團體の組合と聯合の規範に近かづけ、そのころ租税わ輕い團體の負擔となり、凡べてが凡べて淨化されるであらう。それまでの過渡期わ、まあ辛棒して美愛規範の改善に盡くそ

おぞ。

吏僚わ主權を運用するけれども、吏僚が貴といのでわない。優越地位を貴といと思ふ誤認識を清算し、民族と世界にわ中心がなければならぬ必要に基づくことを意識して、中心わ重點であるが、尊嚴の優越觀で裝飾せず、人間性の自己完成を啓明し、社會生活の眞理と最善を保證するに、どおしても人類生活に主權の中心がなければならぬ必要の分化から、主權と吏僚が永久に存在すべきものであるを思わねばならぬ。主權と吏僚わ敬愛される。しかし、優越觀から威張つてわならぬ。人間相互にわ愛の感激が流れ、主權と吏僚わ敬愛されるが、威張らずに人わ互いに敬愛せねばならぬ。

思えば過去の政治思想わ自治や民主や専制に分かれた。自治が徹底すれば主權と吏僚わ無用となり、民主の合意が支配を認めても、合意の決議が變れば、主權の支配わ解散せねばならぬ。人間理學と經濟生活理學わ、人類と社會の完成の爲め、中心指導の根元に、人間性に原づいての眞理と最善を代表する主權があり、規範と完成の方法から脱線する反動を取締まらねばならぬことを承認する。しかし支配と優越の爲めに、無條件な主權と吏僚の専制を禮讚するのわない。全人類を人間自己の完成に導びき、また世界の社會生活を眞善の規範に完成する爲めにわ、特に複雑な國際關係を考慮して、遅れた民族にまでも人間と社會の完成を期待するにわ、どおしても主權の中心實力を認めねばならぬのである。けれども、主權と吏僚わ指導と監督を任務とし、國家社會主義などと稱して、商工業を營む營業主體となつてわならぬ。これ根本の政治意識である。

主權と吏僚の政治意識わ人間と社會の完成でなければならぬ當然の結果として、單に自分の民族だけの幸福を思はず、先づ自分の民族と其の社會の完成を圖るけれども、それわ人類と世界を完成さす順序であり、自分の民族と其の社會が完成すれば、こんどわ主權の下とに吏僚と大衆が一團となつて、世界と全人類を誘う中心指導の

地位に立ち上がらねばならぬ。それに困難な犠牲の大努力がいろお。また誤解されて國と民族の存亡に關する危険に遭遇することもあるお。しかし、人間性に原づく普通の政治意識が、先づ自分の民族と其の社會に盡くして規範の完成に到着すれば、その意識を世界と全人類に擴げ、地球上に醜憎偽惡のないよおにしよおとするわ、いかなる犠牲を拂ろおても辭退すべきでない。斯く人間學を國々の政治意識の根本に偉大なものを期待する。

第六十六章 國策の根本

物事にわ順序がある。階段を上がるにも飛躍わ出來ない。人類と社會の完成が忽ち出來ると思えば、人類と社會の實相を知らない空想少年の小兒病でしかない。國策わ飛躍せず、順序を追い確實に完成の階段を上ぼらねばならぬ。

主權の政治意識わ人間を完成し、また真理と最善の規範生活を實現することであるけれども、それにわ順序の階段があり、一足飛びに完成理想を實現することわできない。ここに國策の問題が起る。國策とわ、缺陷の多い現在より、未來の完成に行く順序の段階である。だから國策わ過渡期の方針であり、規範社會となれば國策の問題わ消滅し、生活環境の完成を維持して、民族と人類の大衆を人間完成に誘導する、正當な政治意識だけとなる。

國策わ主權の政治意識に出發するけれども、主權の政治意識そのものが國策でなく、國策わ政治意識に基づき行き詰まつて缺陷の多い現代を、人間自己の完成が保證される美愛眞善の生活環境に變轉さす手段の順序である。

物事にわ順序があり、國策わ政治意識を貫徹する順序の手段である。我國の今日を基準として言えば、農村の産業組合わ構成單位を部落の農事團體に改め、低利資金の類も個人にわ貸與せず、部落の農事團體に貸與するこ

とし、政府の農事團體を部落の共働農業に誘い、遂に之を規範の生活團體にまで進めるに付いての標準を示し、懇篤に指導して眞理と最善の規範生活環境を、まづ農村部落より實現せしめることとせねばならぬ。之に付いての詳細は、『農村問題總解決』と『經濟學確證實生活篇』の記述に譲る。

いま我國の政府が農林省を通過して町村單位の更生計畫を立てているが、全たく徒勞であつて殆んど實績の上がる更生の氣分さえも動いて來ない。斷然と部落單位の共働農業から其の生活團體に誘い、町村よりも生活單位の部落を、まづ更生さす方針に改めなければならぬ。それも手の裏を返さす如く、ほんの軽い兩三年の努力で十分な結果が上がると思はず、なにしろ賣る物わ安く買う物わ高く、即ち都會の商工業から價額による世界的な搾取を永年に渡つて受けた窮極の行き詰まりなので、どんなことをしても三年や四年の努力でわ、村でも部落でも個々の農家でも容易に立ち直おれないのである。それを立ち直おらすにわ、個人農業を清算さして部落單位の共働農業とするほかないが、個人農業が明治以來の長い慣行となつていて、之を共働農業に改めさすだけに、政治意識のほおから親切な啓蒙の指導を十分にせねばならぬ。古の自由や自治の觀念哲學から、農牧人が自然に發起するを待つていれば、いつたい何時のことになるか判らないので、美愛眞善の生活規範が確定したものであるから、この政治意識を判明に見詰めて、主權と吏僚わ斯くの如く國策の根本を決心し、忠誠にまた親切に啓蒙と指導の本統な政治をせねばならぬ。

部落單位の共働農業でわ、飼糧を作つて牛や豚などの家畜を飼ひ、また農牧の産物わ加工することを、基本の方針とせねばならぬ。こおしたことを農村を立て直おす當然の方針であるけれども、現在の部落人に取つてわ全たく新しいことなので、十分な便宜を與えて懇篤に指導せねばならぬ。だから部落農村人の自由な自治の自然理解を待つていってわ何時のことになるか判ならず、よし彼等が此の理解に到着しても、新しく飼糧を作つて、

馴れない飼育や加工をすることわ、なかなか容易に出来るものでなく、よし之を斷行してみても、馴れないことだから、七八割の失敗となるのである。牛や豚を飼うにわ子を取らねばならず、それにわ産前産後に綿密な熟練の手當てがある。また加工するにも都會産業の専門分擔によつて技術が高度に進んだ今日でわ、その技術を習うだけにさえ、なみたいていの苦心でわないのである。まして飼糧を作るにわ新しい開墾でもせねばならず、それに家畜を飼ひ加工を始めるにわ、莫大な資金と餘剰の勞働力が一年を通じて不斷にいてるのである。あれを思いこれを思うと、こおした計畫わ人手と資金の少くない個人農家にとても實行できず、それかとゆうて、漠然と餘りにも廣い町村を單位としたのでわ、部落々々の利害も相違し、議論倒れとなつてまた何に事も實行できない。どおしても更生計畫わ農村の部落を單位とし、低利資金わ個人に貸付けず、この部落農事團體に貸與して、政府の吏僚より飼糧を作る有畜加工の新農業を親切に教えて、十分に啓蒙し指導せねばならぬのである。

馴れないことを新しく始めるにわ失敗が多い。またそれにわ多額な資金と熟練技術がある。そして、凡べて物事にわ中心がなければならぬ。そこで、政治國策の吏僚指導わ散漫とならず、理解と熱意と協力一致のある部落を指定して此に集中し、まづ模範の更生部落團體を仕上げなければならぬ。それにわ一萬圓くらいの補助金を貸すとわ言わす與えて、熟練な飼育や加工の技術員をも派遣し、その製品わ軍隊あたりで買ひ上げるほどにするのである。それほど親切に指導して、農村部落が更生せぬことわない。

そんなことをすれば、うんと金があるでわないか。國庫の負擔が夥ただしいでわないか。いやいや、これほど金のいらぬ經濟で、國庫負擔が少くない方法わないのである。少くも具體的に言うとしよ。美愛眞善の新しい政治意識から、農村に對する國策の根本が斯くと決定すれば、廣く之を新聞にでも發表する。飼糧自給の有畜加工共働農業に依つて完全に更生せんと希望する部落にわ一萬圓を與えるから申込み、但し其れにわ美愛眞善

の普通意識に徹底した二三人の中堅人物がいて部落の全員も相当理解し、よく和合して勤勉に努力する倦まない気分であり、また飲酒などして浪費する悪習慣もなく、地主も理解し小作人も理解し、全部落が本統に共力一致する所ろでなければならぬと條件を付けて發表する。全国各地から續々と申込むであらう。農林省の吏僚が賄賂を取らず御馳走も受けず、絶対忠誠に調査して、眞に資格のある部落だけに指導と助成を與える。恐らく心の荒れた現代農村に、斯くも適正な資格ある部落は、一年に十箇所も出現せぬのである。一年十箇部落だから、之に對する補助金も總計十萬圓で足り、飼育や加工の技術指導者も、飼育と加工を別人としても二十人あれば足り、國庫の負擔としてわ誠に軽いものである。

一年に十部落くらいの更生をしても、九牛の一毛でわなないかと非難しよ。その頭が漠然觀念數學の散漫である。凡て物事にわ中心の模範がなければならぬ。まづ全國に中心の模範となる部落を十箇所も仕上げる。毎年十箇所でも、三四年たてば數十の中心模範部落ができる。そして、更生指定の補助と指導を受けるにわ、普通意識の中堅先驅者がなければならぬから、有爲な青年だち、希望に燃えて意識を緊張さし、その中堅先驅の人物にならんと、全國農村青年男女の氣分が一變する。また部落人も融和して酒など飲んで争そわす、暗らいから暗らいまで勤勉に努力し、婦人から老人にいたるまで怠たらず働みあい、地主と小作人の共力も疏通し、部落有志も誠心誠意で公金など費消せず盡くしあわねばならぬので、この資格を作る爲めに農村の氣風わ必ず激變する。唯物的に考えず、人間意識を根本にして、部落の規範更生を圖からねばならぬ。斯くの如くにして數年が経過すれば、全國處々に中心の模範部落ができ、之を仰いで我れも我れも資格のある部落が一年に百箇所も現われだせば、それでも一部落一萬圓として、國庫の補助も百萬圓でしかない。更らに數年が経過すれば、全國農村わ先づ意識に於て更生したので、資格ある部落が年々と千をも超えよ。このときわ補助を中止し、低利資金を其

等の部落團體に貸付ける。十年に近かい指導によつて、飼糧自給の有畜加工農業の成功が確實となつたので、もお補助せずとも單に指導だけで、新らしく此の方針に進む部落を成功さすことわ疑がないから、低利資金を貸與しても危険わないのである。その生産物も販賣の順序が立ちだし、軍隊などで無理に買上げる必要もなくなり、凡てが順當に進みます。即ち農村わまづ部落より、完全に更生したのである。千九百三十三年に於ける合衆米國農村の所得を參考までに掲げよ。(單位百萬弗)

| 作物 收入 | | 畜産 收入 | |
|-------|-------|-------|-------|
| 穀物 | 六〇〇 | 牛と犢 | 五〇五 |
| 果物 | 四〇三 | 豚肉 | 五八〇 |
| 蔬菜 | 七八五 | 羊と羊毛 | 一五〇 |
| 棉花と棉實 | 六七〇 | 家禽と卵 | 五八〇 |
| 煙草 | 一八〇 | 酪産物 | 一、二五〇 |
| 其他 | 三九一 | 其他 | 二〇〇 |
| 計 | 三、〇二九 | 計 | 三、〇八五 |

之を見れば、合衆米國でわ主要農産物と思われる棉花や穀物よりも蔬菜の收入が多く、農産物全體よりも畜産收入が多く、そのなかでも牛乳を加工した酪産物が最高の王座を占めている。進んだ國の農業わ、何處でも同じ姿であり、我國の農村も蔬菜や果樹を重要視し、一層重點を畜産加工に置かねばならぬことわ判明である。我國のブラジル移民が成功しないのも、西歐移民わ畜産と加工を主とするのに、我國の移民わ樹木を切つて焼き拂らい、開墾して棉花でも二三回作るだけで、次第に野草が生えて管理ができなくなると放棄し、また新らし

く樹木を切つて開墾を始め、いつまでも基礎のできない徒勞を繰り返えし瘦せ衰らえている。之を見てブラジル人や西歐移民わ、我國移民を山切り人足と嘲けりつつ、木を切つて開墾し野草を生やして放棄する土地を捨て値で安く引受け、その野草で家畜を飼ひ畜産物を加工し、こんどわ日本移民の山切り人足だちに、畜産物の加工罐詰などを高價に賣り付けて呉れる。日本農村の指導方針を斷然と改めなければならぬ。

いま養蠶のことが我國農村の最大問題となつてゐる。これも農産加工の方向にさえ轉出すれば、なんでもないことである。新潟縣中魚沼郡に十日町がある。その町で明石とゆう織物を産出しているが、輕薄婦人の嗜好に投じ、實つに好く賣れるのである。本年春だけに女工四十人を使かう小工場で三萬圓の利益を上げたそおである。隣りに川治村とゆうがある。この村わ養蠶して繭を十日町に供給する。娘をも女工にして供給する。ところが、本年の繭安で村全體の借金が三萬圓も殖えたとゆう。さあ問題である。十日町に數多い工場の小さな一軒が春だけに三萬圓を儲け、川治村數百軒が暗らいから暗らいまで稼いで一年に三萬圓を損した。私わ幾回も川治村に行き事情を好く知つてゐる。養蠶の問題を聞かれて、なゝに組合製糸を作り、同時に織物をやれと答えた。ほんの壁一つである。農産さえ加工すれば、養蠶問題など即時に解決する。しかし現在の農村でわ、補助と指導の強い刺戟がなければ、ただ一枚の壁が越えれないのである。

丹後縮緬の本場に接近し京都府中郡吉原村に我等の先驅者梅田兄弟がいる。手紙の度毎に繭わ安くて百姓が困るが、縮緬工場わとても忙がしく儲けてゐると知らして来る。それわ、生糸が安いと絹織物が飛ぶ如く賣れるからである。ところで生糸相場わ亞米利加が決めてくれるので、内地需要の絹織物が飛ぶ如く賣れても、生糸の値わ上がらないから、織物屋わ儲け放題となる。それなら、農村自身が織物を製造すればよいでわないか。理窟わ簡單だが、さて實行するにわ、資金と技術と販路がある。だから農村の指導を全たく新らしく考え直おさねばな

らぬのである。

養蠶に續いて厄介な問題わ米である。いづれ將來わ、支那や印度や南洋の島々で米を大量に作る時代が来るに決まつてゐる。達觀すれば、米わ農家の自給に止め、内地農家わ蔬菜や果樹や畜産や加工の高級農牧に發達せねばならぬ。それまでの當分わ、まあ無理な米價の調節でもしてゐるがよい。米に付いて一番の問題わ、三年に一度の凶作を覺悟せねばならぬ東北地方である。東北地方でも日本海岸より太平洋岸が危ぶない。そこえわ千島から寒流が来て、その上えを東北風が秋早く吹くと、稻わ實のれないのである。そんな處え田を開かして米作を奨励したことが間違がつてゐる。米が生産過剰だと嘆く今日、そんな生産條件の悪い處え、なぜ米を作れと奨励したのか。もお中止して、米わ農村の自給程度に作り、麥と馬鈴薯と玉蜀黍を主作とし、飼糧自給の有畜加工農業を基本にして、好適する林檎や葡萄などの果樹や蔬菜にも力を入れるならば、太平洋岸わ特に雪も浅いので、凶作で救助を受けねばならぬほどの窮狀にわ落ちぬのである。昔、宇治川の先陣争そいをした池月などの名馬わ青森縣七戸の産であつた。乳牛を飼うにも、土地の廣い東北地方わ世界の好適地である。

現在の吏僚にわ新しい方向の實地指導わできないであらう。篤農家や篤志の技術者を動員して、農村指導の吏僚を代理することも、過渡期の國策として必要である。いかなる時代に於ても、普遍意識の先驅者わ人間と社會の完成の爲めに、自己と時間を最有効に役立てて、吏僚以上に貴とい奉公の努力をしてゐる。吏僚わ優越觀から誤解せず、よく此等の人々を助けて共力せねばならぬ。特に部落共働農業の中堅となる規範の先驅人物を育成し、また部落人の意識を擴げて狭い利己心を清算さすに付き、主權が當然にせねばならぬ政治本來の啓蒙や指導の重要任務わ山ほどあるから、現代の非常時を轉回さすには、主權の吏僚からまづ普遍意識に徹底し、篤志の先驅意識者だちと心から共力せねばならぬ。朝野を擧げて上下が心をつにするとわ、こおしたことを言うので

ある。

農村を指導する吏僚を断じて收賄してならぬ。農村に出張する吏僚が酒宴の饗應などを受けるならば、既に不都合な收賄であり、酒宴の饗應などを受ける吏僚を重罪に處すべきである。疲弊した農村指導の吏僚は出張旅費さえも實費以上に求めず、農村人と苦樂を共にする精神となつてこそ、日本魂の身を以つて範を示す主權の貴とい幕僚と言えらる。美愛眞善の普遍意識を、嚴正に斯く期待する。狭い個人主義の營利動念を、まづ吏僚の心より一掃せねばならぬ。司法と警察を農牧商工の大衆を取締まるよりも、政治指導の行政吏僚を嚴重に監視せねばならぬ。

農林省から發表された農村指導の方針を誤つてゐる。開墾助成や耕地整理の補助が設備を整へる爲めであれば誠に意義あることであるが、しかし、開墾や整地の労働に賃銀を支拂らう爲めの補助であれば悪い。百姓が自分の田畑を開拓して作り、また整理して善くするのに、日當を取らぬと思ふ筈でない。それを思つて農村青年を西歐の都會労働者と同じ賃銀労働の錯覺に落ち入らしたものが、げに開墾助成や耕地整理などの悪補助制度であつた。これらの助成金が如何なる人々の懐ころに多く入つてゐるかに付いて、種々なことを聞いてゐるけれども美教者は現在と將來を見詰めて過去を責めない。自分や家族の者が働らく田畑を開墾し、また開墾地を整理することであるから、自分たち家族の自家労働で、農閑にでも開墾や整地をするのが當然であり、現に我等と先驅者わ斯く意識して、我等を輕一文も開墾や整地の補助悪錢を懐ころに入れたことがない。情實に絡まり撒かれてゐる開墾や耕地整理の補助を、却つて我國古來の良風俗を破壊して、農村人を歐米の賃傭労働者と同じ氣持ちに墮落させた。

補助わ部落生活團體の農牧加工の新しい事業に與えねばならぬ。個人の營利根性を離れて、部落の井戸で全

たく新しい飼糧自給の有畜加工農業をしると指圖するのだから、最初の設備費を補助するわ當然である。弊害の多い開墾助成や耕地整理などの種々な補助金も、設備費だけの少額に止め、新しい方針を最有効に助成せねばならぬ。この助成から多數の部落に成功の實例が示されるとき、此の補助も打ち切り、低利資金を供給することにすればよい。過去に於てわ信用組合を通おし個人に低利資金を貸したが、それわいけない。個人の貸りた金わ悉ごとく無意味に消費されて、いま借金ばかりが農家に残つてゐる。個人農業で多角形の多收穫などわ出来る筈がないから、一切の個人主義指導を中止し、どおしても部落の農事團體に一定規範の方針を示して、嚴重に之を監督しつゝ低利資金をも融通することにせねばならぬ。

我國農村問題の重點わ次三男に付いてである。農村の次三男が妻帯して農村にゐることが不可能だから、彼れ等わ都會に出て、そこから人口が都會に集まり、自然と農村が搾取されて疲弊に落ちることになつた。げに我國農村問題の重點わ次三男に付いてである。農村次三男を妻帯させて、彼れ等が農村にゐられるよおにするにわ、まづ耕地を増加せねばならぬ。我國にわ全面積の八割が原野山岳のままとなつてゐる。それを開放して、部落共働農業の餘剩努力で開墾させるならば、始めて次三男問題が解決するのである。御料地も國有地も縣有地も町村有地も無論のこと、個人所有の原野山岳でも餘り急傾斜でない處ろわ開放し、我國の全面積を五割まで開墾せよおぞ。そこに飼糧を作つて乳牛や豚や羊や、家畜を多數に飼うのである。そのとき農村の面目わ一變し、處々に加工も起こつて農村相互に交換の道も開け、次三男が妻帯して農村に安住しだすと、都會に人口が過剩して労働者に失業の不安を起こすことも救われ、また都會のみが膨脹して、餘りにも中小工業が多いところから、共倒れに賣れなくなつた不景氣も解消される。幸わいにも此の方向に進むなら、我國内地に三億萬の人口を養なうわ容易であるよお。

意識の高い三億萬の人口を有する國民わ世界の最大強國である。優越觀から之を喜ぶのでわなない。我國が規範の生活環境となつて、世界と全人類を完成の方向に指導せねばならぬ必要から、意識の高い三億萬の人口を持ち、狭い國土を最有效に利用して、美愛眞善の規範生活を實力で示す強國となることを、世界と全人類の爲めに心から喜ぶのである。

農村だけが善くなつても、まだ眞善規範の美愛完成社會とわ言えぬ。都會の種々な問題をも總解決せねばならぬ。都會に對する國策わ順序の階梯として、まづ營利會社に代わる公益會社を奨勵する。公益會社が多く設立されて、その成績が善くなるにつれ、法律を以つて十年程の期限を付け、現在の營利會社を悉ごとく公益會社に變更さす。そして公益會社わ嚴重に政府が監督し、事業經營に何にらの不正あることを容認しない。もちろん監督吏僚との間に贈賄や收賄があれば、司法當局わ寸毫も看過せず摘發して嚴重に制裁する。殺人や強盜一人を害するけれども、贈賄わ社會を害し、その罪わ死刑に當たる。けれども死刑わ氣の毒だから、懲治場に入れて遊ばさず閉墜でもさす。懲治場わ原野の多い東北地方などに設け、贈賄者にわ終日の閉墜でもさして、不勞所得を心から後悔さすがい。汗と膏の勞働に精勵していれば、改心の實を認めて早速にも出獄さすであらう。

公益會社の從業者に對してわ、民族一般の生活を維持するだけの支拂を爲し、良品を安價に供給する産業普遍意識に徹底せしめ、主權と吏僚わ嚴重な監督と指導をなし、主權と吏僚わ決して直接に産業を經營しない。事業主體と監督指導とを混同してわならぬ。

良品を安價に供給する公益會社の從業者わ、重役と雖ども營利の貪慾利己心を離れて、最低賃銀の五倍以上を取るを禁止される。期末賞與を許すけれども、之も半期に月收一ヶ月分以上わ許さぬであらう。株主配當わ普通銀行の手形貸付よりも高い利率となるを禁止される。それ以上の利益金わ半額を國庫に納付さして之を政府歳入

の中心とし、利益の半額わ會社の準備積立金として、設備の改善に充用さす。準備積立金の使用に付いてわ、政治當局の許可を受けさすほどにするがよい。もちろん政治當局の吏僚わ絕對清廉であることを條件とせられ、司法當局わ寸毫の不正をも見逃がしてわならぬ。

司法警察わ個人の犯罪を成るべく説諭くらいに看過し、また變態心理の惡習者わ孤島の樂園にでも送つて、農牧生活をさして他人えの迷惑を防ぐほど寛大とならねばならぬが、監督吏僚に對する贈賄の不正わ一步も假借せず、巍然たる態度に依つて人間意識の緊張を圖かり、眞善規範の普遍意識が徹底するよお、これに付いての違反と反動を重に監視するであらう。選舉の賣收の如きも嚴しく取締り、決して寛容してわいけない。公益會社の内部に於て不正の横領を爲すが如き事件があれば、綿密に調査して公務を怠たる背任わ社會より一掃せねばならぬ。司法當局の斯おした態度わ、民族の意識を最急速に眞善規範の普遍完成に向けさすであらう。

公益會社の勞働者わ勞働組合を設立してもよいが、勞働組合わ勞働者の階級利益を強請するものでなくて、普遍意識者總會の分會であらねばならぬ。公益會社の從業者にわ最低と最高報酬が公定されており、個人に付いての差等わ任務と勤勉と熟練によるべきものであり、その判断に勞働組合が参加するわよいが、しかし公益會社の勞働組合わ罷業する自由を持たず、勞働條件に不満があれば、監督官廳の裁斷を仰ぐ資格が認められる。この裁斷に不服があれば司法裁判の判断をも許されるであらう。公益會社わいがい營利會社でわ、その從業者にこおした保護わなく、勞働組合と勞働爭議わ壓迫されず許されよお。

國庫わ公益會社より利益の半額を收得し、その多くの部分を以つて勞務者の幸福設備をする。公設住宅を設け醫療病院や學校を設け、種々な保險制度をも設け、勞務者が低賃銀で終生の安定と幸福を受け得られることを配慮する。これに付いての資金わ、郵便貯金などから、政府預金部よりの融通をもするであらう。

國庫の支出が多い今日でわ、公益會社の收納金だけで國費の支辨わできない。その不足額を租税に依つて補なわねばならぬ。租税の負擔力と生活餘裕に重きを置き、所得税と消費税の二種とし、その他のものも全廢すべきである。所得税は高収入の勞務者や、株式や債券や預金などの所得者に課し、之に付いて非難のない筈である。消費税は悪税の如く見えるけれども、砂糖でも消費しうる人々餘裕があり、二木博士の説によれば、野菜に適當な鹽分などもあり、鹽さえも贅澤な調味料である。だから鹽から砂糖にまでも消費税を課してよい。けれども生活必需の穀物や蔬菜その他の澱粉質食糧と、必要被服に課税してわいけない。

租税は政治吏僚の人員費を最大とする。政治吏僚と雖も農牧人と同様の生活程度で満足せねばならぬ筈である。しかし、いま突然と減俸を言い渡すわ氣の毒だから、今後採用される吏僚の俸給を低く制限せねばならぬ。恩給も同様である。そして、低い俸給収入で生活の安定と幸福が受けられるよお、住宅や醫療や學校などの施設を、公費で完全に整のえねばならぬ。

國費が多額となるわ吏僚の数が多からである。政治を單に監督と指導だけでよいので、今後わ年々と吏僚の新らしい採用数を遞減し、十年のち或るわ二十年のうちに、今日の吏僚の五分の一くらいにするを目標とし、國庫經費の大緊縮を圖らねばならぬ。この方針の公表により、民族大衆も吏僚となるを望むよりわ、農村に忍苦の建設を爲し、都會に公益會社を成功さす中堅となる志望の先驅意識に緊張しだすであらう。

國の政治意識は人間と社會の完成であるけれども、その實現にわ順序の階段を踏まなければならぬ。公益會社わ過渡期の階段である。農村部落の生活團體が町村の産業組合を訂正し、その聯合が製造と交換を有力に爲しうることとなれば、公益會社の工場や鑛山を其の管理に移譲ささねばならぬ。これに付いても國家主權の政治干與がなければ、自由任意に放任して置いてわ、とてい此の移譲が圓滿に進行し得る筈わない。けれども強制だけ

でもいけず、そこに啓蒙と指導の必要があり、啓蒙と指導によつて終局規範の確認が徹底し、農村部落の生活團體が組合と聯合に發展し、そのとき一切の産業を此の規範經營主體に譲らねばならぬことが、民族一般の普遍意識となり、公益會社のほから自發的に移譲を持ち込むほどにならねばならぬ。國家主權と吏僚の重大な任務、斯くも美わしい純愛の眞善規範を、全民衆の意識に徹底さすため、懇篤な啓蒙と指導を爲し続けることである。

受取る者があつて譲り得る。公益會社がどれほど引渡しを思もおても、まづ農村部落の生活團體が建設され、その組合と聯合が確立して、ほんとに眞善規範の普遍意識から、立派な經營の最高能力を現實に示さねば、公益會社の經營者わ、良心から工場や鑛山などを引渡しうるものでわない。公益會社わ營利會社に代わる過渡期の存在であるけれども、規範の經營主體が立派に確立するまでわ、民族と全人類の爲めに産業の經營を最有効に續けてゆく責任があるのである。既に社會生活の規範が判明し、國策の根本も不動の方針を確定したからわ、決して十年や二十年を急ぐことわないのである。

受取る規範の經營主體わ、いま産業組合中央會や販賣組合と購買組合の全國聯合を形ちに現わして、其の萌芽を見せてわいるが、しかし、基礎單位の生活團體が部落に成立せぬのに、そおした上部組織がまづ存在するさえも變態である。それらの中央組織體わ本物の規範組合と聯合そのものでなく、單に産委役に過ぎないことを、それらに所屬する吏僚の優越觀を拋棄し、普遍意識の良心から篤と反省して、美愛眞善の普遍意識より政治の諸機關とも共力し、先づ農村の共働部落に共用の生活團體を確立し、その組合と聯合を、高俸給を喜ぶ吏僚心理を完全に清算して、全たく新らしく建設し直さねばならぬ。そのとき産業組合法も改正されて、個人を組合員とせず、部落の生活團體を完全に組合の基礎とし、販賣組合や購買組合の全國聯合の如き變態存在を解散を斷行せねばならぬ。もちろん農村を完全に更生し、信用組合を無用となる。新らしき時代の産業主體となる部落生活團體

體の組合と聯合の詳細わ、我等の經濟生活理學が篤と究明して説述する。

受取るものの確立にわ、四五十年を要するかも知れない。その前でも、受取りうる産業部門に付いてわ、國家機關も干與して、公益會社より圓滿に移讓せねばならぬ。移讓わ無償でなく有償でよい。例とえば規範の新經營主體が債權と債務の全部を繼承し、差引き勘定に資産があれば、資産額に相當する低利債券を發行し、一定年限内に償還することとするのも、公益會社に對する恩情の方法であらう。或るいわ資産額の幾分の一に相當する低利債券の交附に止めるのも強ち冷酷であるまい。この兩方法の中間に於て、政治意識わ過渡期に對する適當なる考慮をせねばならぬ。公益會社の經營者が受取る移讓收得金の最有効利用に付いても同様である。

國々の主權わ國內の民族生活を完成規範に誘うと共に國際上の努力をして、世界と全人類を規範の完成に導びくことを、新しい政治意識とせねばならぬ。それにわ、先づ自國の民族生活から規範の方向に整頓し、その後ちに國際上の努力をするが順序である。他國と他民族を指導しよおと言ふのだから、先づ顧りみて自國の社會生活に缺陷のないよおにせねばならぬ。之に反し自國の民族生活が滅茶苦茶であるに拘わらず、他國の政治や他民族の生活に干渉するならば、征服支配の野心からであると疑がわれるであらう。

世界と全人類に完成規範の實現を勸告する説教ならば、國家主權の任務であるよりも、民衆先驅の學者や思想家の任務である。また世界の全人類わ民族や職業や地位を問はず、國々で普遍意識者總會に集結し、その總聯合が世界總會をも開くであらう。これわ民衆自身の強力な普遍意識運動であるから、今までの國際諸會議よりわ遙かに強力である。國々の主權と吏僚わ好意を持つて、そおしたものを積極的に支持するであらう。公益會社の剩餘金からも、必要な費用が公然と醸出されるであらう。こおした協力と支持によつて、普遍意識者總會わ今までに於ける有らゆる社會運動や國際努力よりも遙かに強力な活動をなし、根本に於て世界と人類を完成規範の普遍

意識に誘う重大な使命を盡くすであらう。けれども、單に斯おした民衆運動だけに待つていてわ、いつ世界と全人類に完成規範が實現するか、甚だ覺束ないことである。そこで、どおしても先驅國家主權の實力的な國際努力が必要となつてくるのである。

國家主權の實力的な國際努力わ、外交や軍隊の活動を意味するのでわない。最有力なものわ世界交換經濟の今日に於て、國際貿易の經濟進出である。例とえば日本が公益會社制度の發展に伴ない、良品を安價に支那や印度や蘭領殖民地などに供給するとしよお。これら地方農村人わ良品を安價に供給せられて非常に喜ぶ。しかし、英吉利その他の商工資本主義の國々わ、自國製品の販路が狭くなり苦難に墜いる。この苦惱を正當な方法で打開するにわ、英吉利その他の商工資本主義の國々も、また我國と同様な公益會社の方針に出で、資本家や勞働者の報酬も、我が國民や世界人を一般の標準とせねばならなくなる。またもし我國に先づ生活規範が實現して部落生活團體が確立し、その組合と聯合が商工業に當たるものを管理しだし、我國の産業全機關が營利を目標とせず良品を安價に供給する普遍意識となつて、世界と全人類に工業諸製品を安價に供給しだせば、英・米・佛・伊・獨・露の各國もまた我國と同様の規範組織にしなければ、國境を超えて自國の製造品を販賣し得ないこととなり、有力な一國が規範の完成に到着すれば、世界わ貿易を通おして必らず各國みな之に做わねばならなくなる。そのときこそ、支那や印度や蘭領殖民地に至るまで、未開の農村各地わ良品を安價に供給せられ、また生産の原料農産物わ正しい價額で買取られ、始めて世界と全人類が安定と幸福な生活を爲し得ることとなる。けれども、眞善規範の完成に先づ到着した我國の貿易進出に對し、もし英・米・佛その他の各國が輸入の制限や重い關稅を課するならば、この貿易上の經濟進出による世界と全人類への寄與が無効となる。そおした妨害を排除して世界と全人類を規範の安定に誘うにわ、どおしても實力ある國家主權の關與を必要とする。いま現に英吉利や和蘭が我國の貿

易進出に對し妨害の態度を取り、我國の主權を實力ある關與を試みている。

國家主權の實力關與とわ、單純な外交を意味しない。正義の交渉が承認されなければ、實力に訴えることを意味する。それにわ強力な軍備がなければならぬ。國際關係が英・米・佛等の優越國家と、獨・伊・露等の中間國家と、支那やバルカン諸國その他の劣弱國家との間だに緊張し、また印度の如き大民族が他國の壓制な支配を受けて苦しんでいる現代に於て、國際間に正義の規範を徹底せしめるにわ、單純な外交辭令だけでわ無効であり、正しい經濟進出を妨害する國に對してわ、實力行動を取るも餘儀ない態度を示し、その背後に強力な軍備がなければならぬ。強力な軍備を強ち戰爭を意味せず、戰爭をも辭せざる勢いの下とに、正しい主張を承認さす爲め、強力な軍備の存在が必要となつたのである。それゆえ過渡期に於てわ、特に我國の如く國際正義の主張者として、貿易上の經濟進出により、世界諸民族の相互關係を修正して、人間性の普遍意識に基づき、美愛規範の眞善方向に、全人類を指導せねばならぬ國と民族わ、財政の許す限り強大な軍備を持つことも是非ない次第である。

我國の特殊地位より判斷して、國策を細述することわ本書の任務でない。本書わ自然科学の一分科として、人間學の歸結から、世界の各國に共通する過渡期の根本國策を述べるに止める。この根本國策を、英・米・佛の如き優越せる商工資本主義の強民族に對する牽制と、支那や印度の如き弱民族に對する指導とに分ち、美愛眞善の規範方向に先づ進んだ國と民族の取らねばならぬ態度を考察しよう。

第六十七章 強民族の牽制

どちらに向いても都合の好い、八方美人の二枚舌や三枚舌を使かうを、愛の宗教と誤認してわいけない。出來ないことを言い觸らすわ虚偽であり、していないことを實行していると吹聴するわ偽善である。今までわ宗教の假面を被むるものに、餘りにも虚偽や偽善が多かつた。

愛とわ八方美人の御世辭を言うことわでない。事實出來ることを、また爲しうる可能なことを、最大範圍の最高迅速に實現して、まこと全人類の爲めに盡くすが愛である。眞理わ唯一であり、最善の規範も唯一である。眞善完成の唯一規範を實現するにわ、八方美人の御世辭を言うておるわけにゆかず、魏然として正道を固持し、普遍な美愛の標準規範生活を確立して、いま窮苦に悩める人々を救い出し、虚偽と偽善の搾取に依つて獨占する榮華を解放ささねばならぬ。かく普遍意識の眞理と最善を見詰めて、情實と八方美人の御世辭がない美教を、冷たいと感ずる者もあるらしい。それわ、過去に於て宗教とゆうものが出鱈目の御世辭を言い、誰れにも都合よく氣嫌を取つて、表面を美愛の形式で飾り、内輪わとても醜く虚偽と偽善の傳統であつた、因縁と情實の絡みあい、に誤魔かされている錯覺感情の逆か立ちである。

釋迦も基督も孔子も斷じて出鱈目の御世辭を言わなかつた。釋迦わ騒がしい求道者を勘當し、基督わ兩替する者や鳩を賣る者の店を壊わした。孔子わ弟子だちに一人も我が道に達した者がないと口辭の如く難じ、教祖と聖

人わ直言して、御氣嫌とりの御世辭を言わなかつた。念佛や題目を唱えさして、御氣嫌を取るわ末法形式の偽善宗教である。

人間理學と經濟生活理學わ、本統のことを遠慮せず言う。普遍意識の美教者わ、言うだけでなく實現しよおと緊張する。魏然とした此の態度でこそ、始めて世界と全人類が眞善規範の美愛完成に到着しうる。英・米・佛の民衆にわ氣の毒であるが、支那や印度や世界の苦しむ人々にも眞善の安定と美愛の光榮を授ける爲め、大きな苦言を呈して反省を求め。誠に止むを得ず此等の強民族を牽制して、營利會社の飽くなき貪慾から廣い意識に解脱さし、高収入を搾取する優越地位を拋棄せしめて、世界の全人類と共に樂しむ公益會社の階梯を上げらさねばならぬ。人口の九十二パーセントが農業を離れた英吉利をさえ、再び農業基本の普遍組織に變更し、印度の如き殖民地わ地圖の色を其のままとしても、窮苦する黒色人種の凡べてに、白色人種と同じ美愛眞善の生活環境を持たし、彼等の祖先釋迦の如く、彼等の全部を人間自己の完成に誘わねばならぬ。そしてまた、英・米・佛の諸國人も我が國人と共力して、支那や南洋や亞弗利加や、世界の遅れた國々の全人類を、安定と光榮の規範生活環境に導びこぞ。

遠く離れた我國の學者や思想家から、海と山とを隔てて英・米・佛の民衆え、そんな種類の説教を放送しても急に效能わない。しかし、普遍意識者わ英・米・佛の彼方に於ても、同じく心を痛めていることである。けれども、此等の人々の普遍意識者國際會議がただ相談しただけでわ、まだ主權と全民族を動かすに足りない。それでも、學者や思想家の放送が繰り返えされ、普遍意識者の世界總會が幾回となく正義人道の基礎認識を興え、提案のよおな決議などをしてる間だに、強民族の主權と大衆わ深い反省に沈んで、篤と考慮する心境に變化しよお。この反省を承認にまで迅速に導びき、英・米・佛の列強主權と優越民族を本統に覺醒さして、世界共通の普遍意識

から、全人類の生活環境を眞善規範の美愛完成に進めることに同意さすものわ、先驅國の實力提案でしかない。

美教者わ嘆かない。人間理學わ魏然としている。普遍意識が我國主權と全民族に徹底するころ、我國わ先驅して實力ある提案をするであらお。我國だけでなく、伊太利でも、獨逸でも、その他の實力ある國々が共々に提案するならば幸わいである。しかし、眞に實力ある國わ、我國を第一とするから、世界の普遍意識者わ、我國より提案することを期待するであらお。何にを提案するとゆうのか。強民族の優越地位を解放さして、弱民族をも安定と幸福な規範の生活環境に置き、全人類を普遍意識の人間實質完成に誘わんと提案するのである。

富豪の資本家が自發的に營利會社を解放して、公益會社の組織に轉向することわありうる。なぜなら、それほどのことわ、富豪の資本家が個人意思だけで實行できるからである。しかし國家政策となると、種々な機關の關與があり、意識の低い多くの吏僚が其の機關の要路にいて、民衆のがわに立つ新聞雜誌の記者などにも、餘り意識の高い者わ少くなく、まして一般民衆の意識わなおさら低いことであるから、少數一部の普遍意識者が眞善規範の美愛完成を提言しても、なかなか賛成を受けることが困難であり、そおした事を時機の熟する前えに提案すると、提案者が忌避されて排斥される。排斥されてもよいが、それでわ再び提案する機會を握り得なくなり、また將來に於ても代わつて提案する者が前車の覆滅に恐れて躊躇しだす。それで、國策を正しい方向に誘うことわ誠に困難であり、國內に多く普遍意識者が出來て、その總會のよおなものが行き渡らないと、どんな提案も運動も時期尙早で無効となる。しよせん、人間意識の數と量とが、大きく動いて強く緊張せねば結局わ無効である。

世界にわ中心がなければならぬ。中心わ必ずしも優越の強國と限らぬ。社會の進展運動わ國內に於ても貴族や富豪の重い口より起こらず、責任の軽い大衆先驅者の口より起こる。世界の進展中心となり、眞善規範の方向

を提言する國も、列強の最大國であるよりも、日本や獨逸や伊太利の中間國である。しかし、その國が先づ自分の國內に於て、規範完成の方向を國策に示しておらねばならぬ。自分の目に梁を挟んで、他人の目の洗われな

いを非難してわいけない。國內に於て最初に提言する者わ、國家主權の政治當局となつて、責任の重い地位にいる者よりも、民衆の中かの普遍意識者である。特權階級の人々にも多くの普遍意識者がいるであらう。それでも、自分で提言する結果を擧げるに好都合でない。責任の地位にいる者わ、自分で提言するよりも輿論の正しい理解を準備するであらう。まして最も複雑な國際關係の訂正を一層困難であり、優越列強の英・米・佛から、全人類の永久安定と普遍幸福が提案されると待望してわいけない。

制度の簡単な昔なら、輿論を起す特別工作の遠慮を不要であつたであらう。複雑な組織の今日でわ、それほどの深慮遠謀がなければ、國策を正しい方向に速く進行せしめ得ない。國策わ一人の支配者によつて天降らし得ず、多くの普遍意識者の支持と、民衆の臆氣な理解がなければ、支障なく圓滿にわ實現され得ない。自治や立憲や共和や共産を主張する者わ、往々にして國の政治を突然と變異せしめ得ると妄想するが、彼等わ餘りにも香氣な空想觀念の天ま降だし病患者である。

天ま降だりわ主權と吏僚から來ると限らぬ。主義や思想の運動者が突然變異を強制するならば、それが即ち新らしい天ま降だりであり、理解のない民衆わ、却つて狼狽することであらう。天ま降だりわ何ん人が如何なる主義や思想で斷行してもいけない。新らしい方針わ天ま降だらず前えに、先驅者と大衆えの理解を擴げて置かねばならぬ。複雑な國際關係の變更に付いてわ、此の用意が一層必要であり、變更を如何なる國から天ま降だらし

て強制するにも、先づ全人類の世界輿論を理解に導いて、豫じめ十分な準備をして置かねばならぬ。

朝に立ち責任の地位に据わる者わ、とかく民衆の運動から遠ざかりがちであるが、之も非常に大きな誤まりである。朝に立つ責任者わ、寧ろ隠れて正しい眞善規範の美愛普遍意識が、民衆の大きな聲となつて進歩の運動となるよおに助成せねばならぬ。この助成を他から非難されず實行し得る能力者こそ、げに深慮遠謀の名將にも比ぶべき、將來政治の中堅先驅者であり、彼れわ支配するけれども、その支配わ専制でない指導である。時代わ實に斯くも偉大な人物を待望している。

幸わいにも朝と野と普遍意識者が心を一にして、或る國に眞善規範の美愛方向が進行しだせば、その國より世界に對し提言しうる。國が世界に對し提言することわ、國內の政治改革よりも容易である。なぜならば國內にわ種々な機關が分かれ、容易に國論を統一し得ないけれども、この最大な困難を突破して、或る國の國策が確定し眞善規範の美愛方向に進みだせば、國としての集團勢力によつて世界に提言するのであるから、誠に容易なことである。まして國にわ軍隊の實力があるから、その擁護の下に提言される正義人道わ、深甚なる反省を期待し得る。それゆえ最大の困難わ國論を統一することであり、この大困難さえ突破すれば、國より世界に提言することわ割合に容易である。

如何なることを提言するのか。幸わいにも我國が其の地位となれば、我國より世界各國え提言せねばならぬ。『世界わ農村も都會も行き詰まつた。それわ營利動念の商工業を民族と人類生活の基本としたからである。それでわ世界わ益々行き詰まるばかりだから、我國わ營利會社を公益會社に變更さした。また我國わ農村部落を單位とする安定と光榮の規範生活の確立を促進している。實行して日なお浅いけれども、すではや顯著な成績を示している。その福利を遅れた世界の諸民族にも分けたいので、公益會社の製造する良品を安價に供給してあげることにする。これわ少しも邪念のない正しい人類愛の普遍意識からであるから、どおか各國ともに共力され

て、氣の毒な未開の農村人にまで幸福が行き渡るよお、我等の方針に種々な便宜を與えられたい。』まあ提言わ斯おした意味で叮嚀を極めて陳述する。そして之を世界ちう、特に未開地方の全人類え有らゆる方法で知らすこととする。之を確かに正義人道の公明正大であるから、英・米・佛・伊・露・獨も斷じて反對わ出来ぬであらう。

列國が我が提案に賛成すれば、自由貿易とせねばならなくなる。輸出入の制限や割り當てや關稅障壁を撤廢せぬばならなくなる。しかし、英・米・佛等に取つてわ、突然と自由貿易となれば、いづれの國も自國の資本家や労働者の生活程度を突然と低下さし、國內に混亂が起こる。それでも、世界各國にわ普遍意識者が先驅しかけたことであるから、また正面より正義人道の提案に反對すれば、殖民地などが承知せぬであらうから、英・米・佛・伊・露・獨の優越各國も沈思熟考せねばならなくなる。この沈思熟考から、正しい思想が世界の各地に勃々と湧き起こる。支那や印度や南洋や亞弗利加や中央亞細亞などから、續々と民衆の目ざめる聲が聞こえだす。

英・米・佛が反對して、我國の提案を拒絶し、我が輸出品に重稅を課し、まして輸入を禁止などすれば、我國わ堂々と非を鳴らして外交談判をし、經過を世界に放送して、その爲めに被害の地位に立つ農業の弱民族を特に目ざめさす。我國にわ強大な武力がある。しかし、戦かうと見せて戦かわぬ。なるべく外交談判を長びかし、世界の正論を起すに有らゆる努力をする。そして英・米・佛の拒絶に對し、年限を付けて一時の同意をするも方法である。ともかくも外交談判を續け、陸海軍も實力ある威勢だけを示す。あちらから戦こおて来れば、止むを得ず迎え撃つ。こちらからわ決して戦かきを開かぬ。そでないいと、誤解されて弱民族の共鳴が薄い。

恐らく英・米・佛も戦かきを挑むことわない。よし聯合して日本を叩き潰さんとしても、島國日本の守りわ固い。戦かい不利で一時の退却をしても、世界人道の爲めに退却したことであるから、世界の普遍意識わ深い同情を寄せる。十數年が經過すれば、世界わ我國の正しい提案を、どおしても支持せねばならなくなる。敗けても勝つのである。いやいや、島國日本わ強いから、決して攻めて來られて敗けることわない。もし攻めて來れば、潜水艇さえ健全なら十分である。英米佛の聯合軍わ我國を遠巻きに封鎖する程度であらう。その間に、英・米・佛の覇權を疑がう伊太利や獨逸や露西亞が沈黙している筈わない。我國に味方しないまでも、獨自の立場で何事かを始める。遠い極東にまで、長期の遠巻き戰線を、如何なる國々の聯合軍でも頑張り續けることわできない。ああ、ああ、それほど愚かな好戰人種が、英・米・佛の文明國に住んでいるのであらうか。英・米・佛わ必ず我國の提案を慎重に考慮するであらう。

英・米・佛わ恐らく讓歩し、年限を付けての輸入制限や割り當てや重關稅を答えよお。此の年限の間だに英・米・佛も營利會社を公益會社の方向に轉じさし、また農村を基本とする規範の方針を獎勵せねばならなくなる。それを條件として我國の外交わ長期の交渉により、過渡期の暫定協約に漕ぎ付けるであらう。なお國際労働會議や種々な機會に、我國わ絶えず正しい規範の主張をなし、有らゆる方法で世界と全人類を眞善安定の美愛光榮に完成しよおと努める。かくも根氣よい實力啓蒙によつて、遂に強民族わ牽制され、世界の生活環境わ善くなつて、全人類わ普遍意識の人間完成に進むであらう。

昔わ國と民族の意識が暗らかつたから、優越觀の領土慾などで戦こおた。その時代の外交わ權謀術數を事としていた。もお、そんな時代でわない。人間性が判明したから、純美純愛純眞の普遍意識より、民族と全人類を人間完成と生活規範に誘わんとする公明正大の態度で、先進國が遅れた國と民族を指導するのである。だから外交わ權謀術數を用いず、堂々と眞善規範の正義を放送して、世界輿論の支持を受けねばならぬ。

現代に於ても外交の主張理由わ、自國民族の生活利益や、既得權益の擁護程度である。將來に於てわ、人間と社會の完成を堂々と全人類の立場から主張するであらう。この主張が是認されるにわ、人間性を指示して、社會

生活の眞理と最善を確認ささねばならぬ。この爲めに人間理學と經濟生活理學を、新しい國際關係の基礎理論として、世界に知らす必要がある。

主張も正當でも、之を理解する多くの人が支持せねば、受け入れられて承認されない。普遍意識者の世界總會を此の故に必要なである。幸いにも人間理學と經濟生活理學の大要をエスベラント語に譯されて、各國の有志に送られている。各國で更に之を各自の國語に翻譯する意識者も現われた。人間實質の自己完成と社會生活の眞理と最善が、一日も早く世界の多くの人々に理解されて、普遍意識の先驅者により強く支持されることを、全人類の爲めに深く待望する。

英・米・佛の基督教徒は、我國や未開の各國に啓蒙の教會と學校を建てた。普遍意識者の總會が進展するにつれて、人間理學と美敎の説話敎壇は、世界各地に設けられるであらう。また中堅となる先驅の普遍意識者を育成する學園も、國々に開かれるであらう。特に支那や印度や南洋に對し、そおした計畫が野心のない人類愛から進められねばならぬ。此等の遅れた國々の民衆や、文明國でも意識の低い人々を導びく爲めに、人間理學を美敎として、宗教の形式に依り誘う効果の早いことである。

第六十八章 弱民族の指導

優れた叡智者ばかりで聰明に感じて、行き詰まりを待たず新しい方向へ轉出し、彼等の先驅努力によつて、社會を進化し歴史を發展する。優れた先驅の叡智者は、一日も早く人類と其の社會を完成に誘わんと悩む。主權者も悩み、吏僚も悩み、學者も悩み、思想家も悩み、資本家や農牧者や労働者の叡智あるすべての人々を悩む。しかし人類と其の社會に、意識の暗い鈍感な者が餘りにも多く、人類の大衆に先見の聰明な叡智者が少数であつて、一を聞いて十を覺とる反對に、十を教えて五六をも理解さし得ず、行き詰まりが深刻となるまで颶風の警報を受けても、なお前夜の舞踊を止めない痴人の群集に似ている。

文明國の人々も意識を進めて、農牧者も労働者も聰明になりかけた。文明國とわ農牧者や労働者の家族に至るまでが、叡智の聰明に近かづきかけた國々をゆう。人間理學の普遍史觀に依れば、民衆の意識が進むに従い政治と生活の姿が變わり、歴史を進化するのである。

世界にわ文明國よりも半開國と未開民族が多い。バルチザンの虐殺をする露西亞の民族はまだ半開であり、バルカンの國々も半開の状態にいる。支那や印度や南洋の島々と、亞弗利加大陸の諸民族も未開や半開の状態である。これらの遅れた國と民族は、先進の文明國と開化民族が、親切に指導せねばならぬ。

暗愚な者も指導に對し誤解する。反感さえも抱く。彼等も暗愚の故に禽獸に似た自然生活から肉體と意識の情

性が抜け切らず、指導を支配と誤認し、人間性の自由な發揮を安逸に暮らす自治とも錯覺する。彼等わ低級な情歌を小鳥の如く唱い、満腹すれば豚の如く横臥する。暗らい意識で狭い周囲しか見ることのできない者が、未開國の低い半開意識の民衆である。

しかし彼等も人間であり、生物としての人間歴史を、支那人や印度人や中央亞細亞人やバルカン人や埃及人や猶太人やアラビア人が古る。ただ彼等の社會組織が整頓してない故に惡い生活環境に育ち、肉體人間の種子わ起原が早くて善いけれども、生活環境の畑が惡い爲めに健全な意識の發育をすることが出來ず、人間實質を純美純愛純眞の永久生命に完成し得ないのである。半開と未開の弱民族わ衰れである。

世界と人類を善くするにわ、文明國の富強民族よりも、半開國や未開國の貧弱民族のことを考えねばならぬ。私わ日本の國と民族を完成に誘わんと努力するが、それわ先づ日本の國と民族を規範の文化に完成し、日本の國と民族の大きな力によつて、世界の遅れた國々をも安定と光榮の生活環境に導びき、その諸民族を純美純愛純眞の人間性に目ざめさせて、永久生命の實質完成にまで誘わんと思ひ惱むからである。かく思ひ惱むわ、我等の意識が普遍の方向に擴がり、我等自身の精神體が充實するほど、意識の固有傾向から自然に溢れ出る、人間性の無條件な躍動である。

最大の困難わ遅れた半開國や未開國の鈍感民族を、文化の規範完成に誘うことである。困難の中かの最大困難に突進することが、げに貴とい先驅者の重大使命でわないか。意識を進めて自己の人間完成に近づいた美教者わこの最大困難に突進しよおぞ。私の血肉わ最後に斯したこと爲めに埋葬されるであろお。極東日本の先驅意識者よ、男も女も奮起して、まづ我國を世界の模範國に完成し、共に共に世界の遅れた民族の爲めに盡くそおぞ。劍・鏡・瓊が高天原より天ま照らす。

聰明な意識者わ行き詰まりを待たず生活環境の歴史を、人爲淘汰の品種改良にも似た方法で進轉さすが、意識の遅鈍な者わ行き詰まりが深刻にならぬと目ざめない。彼等わ小鳥の如く情歌を唱い、夏虫の如く赤い灯と青い灯を逐う。いま行き詰まりが深刻に近づいた。それでも大衆わまだ目ざめない。颶風の警報が頻りに鳴る。それでも彼等わ夜宴の亂舞を止めない。いやいや、もお巫ざけたことを、長くわ續けられないぞ。足元の大地が揺るいで、行き詰まりが深刻に頭上えも落ちるぞ。農村の總疲弊わ、目先の價額調節や、過剰生産物の買い上げや減産の統制や、桑園の減反や、そんな消極姑息の彌縫策でわ、もお長く救われないぞ。農村の總疲弊わ都會との人口割合を見詰めて、次三男問題を根本から解決し、また加工と交換を搾取されない部落單位の組合と聯合が管理しだすまでわ、年々と疲弊の深刻さを増すばかりであるぞよ。この上えにも農村が幾倍と深刻に總疲弊すればそのときこそ、どんな意識の鈍い者でも目ざめずにわいられない。なぜなら、それわ同時に都會の商工業を賣れない不景氣で暗黒にし、農村を離れて浮浪する求職者が、都會の労働者を大量に失業さすからである。思えば、中間景氣を浮き上がらす赤字公債も永續できず、増税にも負擔力の制限があり、五年十年二十年と、このままでわ日本と世界が、ともかくも行ける筈わない。

幸わいにも我國にわ叡智者が續々と先見の聰明で熟慮し始めた。政治の吏僚も軍人さえも、貴族と富豪と地主と資本家も、追々と目ざめかけた。左翼や右翼の誤認識學者と思想家までが、必らず目ざめるであろお。そして農牧者や労働者の先驅する中堅の人だちと、上下朝野の普遍意識者が心を合わせて、新しい方向を見詰めるならば、極東に日の本とを誇る豐葦原の我國わ眞善規範の完成國となつて、世界の遅れた國々と諸民族を導びく中心となろお。物事にわ中心がなければならぬ。我國が中心先驅の指導民族となり、印度から南洋え、また露西亞えもバルカンえも亞弗利加えも、文明の強國とわ牽制しつつも共力し、世界と全人類を安定で幸福な生活環境

に誘うであらう。我等の任務が重い。げに世界に歴史あつて以来の最大な任務を、我等が先驅して成し遂げねばならぬ。

文明國でさえ、まだ大衆意識が鈍い。英吉利の労働者をも、亞米利加の鑛夫をも、佛蘭西の機織り娘をも、みな人間性に目ざめさせて、美愛眞善の普遍意識を持たせるにわ、物質生活に深刻な行き詰まりを味わあさねばなるまい。我國に公益會社の制度が確立し、世界を良品を安價に供給しだせば、彼等も世界の遅くれた農村人と同じく行き詰まりを満腹する。それよりも前えに彼等が聰明な自覺をして、我等の方向に共力するを望むけれども、この聰明が彼等に缺けるならば、世界と全人類を完成さす廣い意識から、涙を吞んで彼等に行き詰まりの深刻なものも味わあさず、愛兒を強く反省さす慈母の大愛である。まして遅くれた未開と半開の諸民族、教育が普及せず生活環境も悪るいから、険しい生存の行き詰まりに依つてさえも、容易に自覺することができない。行き詰まりに依つて自覺しうるわ、政治と生活の組織を規範の方向に改革しよとおと、好機會を待つ先驅の普遍意識者が政治と産業の上層に多い文化國だけである。政治と産業の上層階級に先驅の普遍意識者が續々と現われて大衆の自覺から輿論の聲が大きく起るを、改革の好機會であると待つてゐる社會意識の疏通した文化國だけが行き詰まりの深刻とならない前えに、生活環境の歴史轉開を先づ成し遂げる。そして此の偉大な國の實力指導により、半開國や未開國の遅鈍な諸民族を始めて救われ、人間と社會を眞善規範の美愛完成に近寄らす。文化國の先驅民族は、じつに重大な使命を擔任してゐるのである。

支那人や印度人や南洋土人を思うとき、私の兩眼にわ常に涙がある。なんとかして彼等を規範の完成方向に救うことわ出来ないであらうか。かく思う私の胸は、いつも重い悩みで塞がつてゐる。普遍意識者わ自分の生活欲望など考えず、誰れもがみな廣く思い悩む。これほどの廣い悩みを持たないならば、純美純愛眞の人間性え、

まだ普遍意識わ届いておらない。

例とせば支那わ、こんなにも行き詰まつてゐる。支那の實情を紹介した權威ある書籍から、轉載する次の記事を読み、人間ならば必らず兩眼に涙が浮かぶであらう。

「今日の土匪の多くわ、軍隊官憲の誅求から、生活の途を失なつて土匪となつたものである。……大正十二年列車襲撃で有名な臨城土匪の巢窟に流行つた歌がある。……有産階級から錢をとり、中産階級わ干渉するな、無産者わ早く来て我々と一緒に山寨で暮らせ、……日本の義賊とゆうわけである。……地方荒廢して有産者が都會に逃げ出すに至つて、嘗て味方と稱した下層階級までも搾らなければ食つて行けなくなつた。……慘虐性を帯びた土匪が大部分である。」

げに支那の農村わ疲弊の底に落ち、反對に都會の人口わ増加し、上海の如きわ人口四百萬を超える東洋の都會となつた。

「土匪にわ土匪養成所の軍隊を出た者が多く、少こし大きな土匪團にわ將校上がりも居り、中かにわ逃走軍隊がそのまま土匪の群れとなつたものもある。……お粗末なのにわ百性一揆のよおな態りで、鐵砲も火繩銃見たよをなのを持ち、太刀や棍棒等を携えた雜然たるものもある。土匪と軍隊とわ殆んど區別が付かず、軍隊の待遇が悪るかつたり、軍備を縮少したりすると、軍隊が忽ち土匪となり、また反對に土匪を招いて軍隊に改編することもあり、改編されて軍隊となると窮屈なので、また逃亡して土匪となると言う工合で、土匪と軍隊等わ

餘り區別のない存在である。」

「土匪の日常生活に各種々のことがある。……毎日仲間の二百人位が一團となり、田舎の大きな構えの家を圍み、男女を捕えて火を放つ、火が充分燃え上がった所で他の家を焼く。捕えた人質を老人を殺し、若者や仲間に入れ、大きい旗を一つ渡して標とする。仲間に入った者や掠奪した婦女と一緒に住み、その中かの一人を選んで妻とすることが出来る。数日おきに大拜堂に集まり、十数人から數十人の幼児を伴って来て遊戯の具とする。それや彼等が放風箏と名づくるもので、一人の土匪が竹の上に登って其の梢を曲げ、地面に近かつけると、下下に居る數人の土匪が其の竹の梢を引き曲げ、その尖端に小供の肛門から腸を引き出して結び付け、突然手を放せば曲げられた竹が其の弾力で跳ね返り、小供が高く弾き上がり、次いで腸が長く引き出されて丁度風箏の糸のよおになり、鮮血淋漓たる所を紅とゆう。」

これら土匪の遊戯である。商賣となると、土匪の慘虐な目も當てられぬ。

「一千名の大土匪團が起り、三十餘箇村を全く灰燼に歸せしめ、住民を焼死しないものも屠殺され、手足を切り離して樹の枝にぶら下げ、女を凌辱した後に火中に投じた……安徽南部も各縣共に土匪の跳梁甚だし、人民の方でも自衛團を造つて防禦して來たが、遂に土匪團の爲め涇縣縣城を占領された。土匪の首領自ら團長と稱し、婦女富豪を悉ごとく捕えて人質とし、討伐軍に備えるため婦女を城門に並べて置く、城内を放火殺人が行なわれ、大部分の住民を城から逃げだし、殺されたもの一千人と言われて居る。この土匪が附近に巢窟を構えて居て、今までも村落を荒らして居た爲め、村人附近の山林に隠れて居たとのことである。……」

土匪の去つた後とにわ必らず土地の浮浪者が其のお流れ頂戴に出掛け、家の中かのガラクタまで引掻き廻して持つて行くので、家人が歸つて來た時にわ、何に一つ残こつて居ないことになる。」

しかし軍隊も決して安心が出来ない。

「兵の惡いのは土匪の上等なより確かに惡い。土匪の常套手段は主に掠奪と人質だが、兵の方を掠奪と凌辱である。土匪追撃中の軍隊が沿道凌辱をやることわ珍らしくない。また軍隊に包圍されて居た土匪が人質を伴つて逃げ去つた後とに、軍隊が村に入つて掠奪した品を満載して歸つたとゆうのがあり、どちらが土匪か分からぬ。」

それでわ自衛團でも作れるかと言うに、

「山東の……人家百戸ばかりの小村でわ、民團が驍勇なため土匪が久しく目を着けながら手出しが出来なかつた。團長の王が非常に義氣に富んだ男で、何時か大部隊の土匪が附近の村を襲おたとき應援して人質を救い出した。その後附近一帯の土匪の親分等が聯合して五百餘名の集團が附近の村々を荒し山に立て籠つた時に王が團丁數十名を率いて之を攻撃したが、土匪の方で豫かじめ準備して居たので忽ち苦戦に陥り、王が奮闘十數名を殺したが自ら重傷を受けて土匪に慘殺された。……私怨を報ずることの深刻なわ支那人の通有性であるが、殊に土匪が最も復讐心に燃えて居る。民團が一度組織され、土匪に對する對抗が始まると、土匪の

怨恨を忽ち民團の上えに集まる。民團事務に熱心であつた爲めに残酷な殺され方をしたものが少くない。……村の自衛團が小さい土匪に對しては防禦出来るが、土匪わやがて各地の土匪を聯合して復讐に出掛けて来るから、一度自衛團が敗れたとなると村を擧げて焦土となさる。そこで村人萬策盡き、人力以上のあるものを求める。かくて迷信的な宗教團體が生まれ、これにより自衛を行なうことになつた。紅槍會や大刀會の如きこれである。」

此頃流行する共產軍どおかと言うと、

「湖南の宜章でわ各村毎に人口に比例して數十名から數百人を強制的に共產軍に編入し、編入されたものわ左腕に、『共產』の二字を入墨したので、官憲に捕まればどうせ殺されるので、勢い共產軍に付いて居なければならぬ。一時湖南の共產黨員十萬乃至二十萬人といわれたわ、大部分こおした狩り集めものである。共產軍に壯丁を出さない村わ反動派として全村民を屠殺するので出さないわけに行かぬ。」

共產軍の行動わ、

「共產軍わ農民を土臺にして起つたのであるから、その主目標わ土地革命にあつた。そこで全国的に農民暴動を起こして、一舉に天下を取る積りであつた。所ろが實行に移つてみると机の上の計畫みた様に行くものでなく、種々の要素が這入つて来て、今でわ共產色よりも却つて支那色の方が強くなつた。……支那の農民に一番

苦痛を與えて居るものわ苛斂誅求である。これが農村を極度の窮乏に陥ち入れたのである。次ぎにわ金利の高いことである。金融機關のない支那の農村でわ、高利貸や地主から金を借りるのであるが、その金利が馬鹿に高く、湖南でわ月に一割わ普通のことだし、高いのわ月に五割に達しているから、貧民わ甚だしくこれに苦しめられている。第三わ小作料であるが、小作料わ南支那わ北支那に較べて一體に高く、北わ地主小作人五五位だが、南わ地主六小作人四となり、湖南わ更らに七三位になつている。そこで農民運動わ自然この三つのもを目標とし、各地を通じて次の標語が掲げられた。

小作料を取立てたものわ殺す、小作料を納めたものも殺す。

租税を徴収したものを殺す、租税を納めたものも殺す。

借金を催促したものを殺す、借金を返えしたものも殺す。

湖南東部の或る村で、土地の富豪が晩年になつて一人の男を生み、寵愛限りなく今年十八で中學を卒業したが、それが共產黨に誘い込まれ、その父を目して土豪となし、自ら父の首を斬り衆に示してゆうにわ、中國革命が余の徹底振りを學ばば、共產の不成功憂おるに足らずと、かくて彼れわ一躍名をなした。……或る所ろでわ共產黨入黨の徴として最も血縁の近かいもの、首を斬つて來るとゆう規約を設け、或る少年わ叔父の首を斬れと命ぜられたのに泣いて斬らなかつたので殺されたとゆうのがある。若い男女わ晝わ行列を作つて示威運動をやり、夜わ一ヶ所に集まつて大賑わいをやる。共產黨で名の賣れたのわ多く其の父を殺したためである。父を殺すのわ黨徳であり、姦淫わ解放である。……殺人にわ時にわ活きながら梁に吊るし、下たに釜を置き、少しづつ切り取つて煮て喰うことがある。」

こおした記事を読み私嘆息した。私の目に涙が浮かんだ。普遍意識者ならば、誰れもが嘆息し涙を浮べるであらう。げに人類最大の悲惨事でないか。なんとかして此の悲惨事を、世界の何處にもなくせねばならぬ。これぞ最大の慈悲であり、慈善とゆうも、哀れな支那の如く遅れた國を、善い政治の幸福な社會に立て直し、彼等をみな自己完成の安定と光榮な生活環境に導びくことである。それを他國の内政に干渉するなど遠慮してはいけない。慈悲であり、慈善である。純愛の最も大きな國際互助の犠牲努力である。

狭い部落の中にあつても、子供を虐待して教育せぬ父母があれば、隣家から保護を加えて指導せねばならぬ。それを他家の親權に干渉することだと遠慮してわいられない。政治の主權に付いても同様であり、政治の主權を支配者が優越觀の自己感情を満足する爲めの裝飾でないから、例とえば支那の主權が無能力であつて、國內に於ける如何なる狂暴をも取締ることができなければ、善隣の國より好意の配慮をするわ、それこそ普遍意識の人間性が當然に流れ出る慈悲の慈善である。今までの政治思想でわ、それを他國の内政に對する干渉と遠慮していたが人間學の確認わ此の遠慮を消滅せしめ、善隣の國が積極的に配慮するを國際正義の道德とし、之を遠慮するわ却つて怠慢と卑怯の罪惡となる。

中央主權を偏頗に動搖して腐り、軍隊わ土匪と區別のない墮落に崩れ、村と部落の民衆が自衛團を組織するとさえも不可能な支那の民衆を、このままに放任して置いて善いのか。領土を狙つて斯く言うのでわない。貿易の利益を欲しがつて斯く言うのでもない。純粹に正義人道の普遍意識から、支那四億の民衆を安定と光榮ある生活環境に導びき、永久不死の人間實質を完成せしめて、彼等を純美純愛純眞の宇宙生活に誘わんが爲めに斯く言うのである。

誤解してわいけない。決して誤解してわならぬ。誤解されないかと遠慮してもいけない。誤解わ自然に解ける。

誠心誠意ただ忠實に純粹な普遍意識から、利害を離れた犠牲の精神で、善隣の慈悲と慈善の同情をするならば、内政に干渉するとか、領土や貿易利益を狙うとかと誤解する國があつても、また支那の主權と民衆が斯く誤解しても、正しいことを本統に盡くしていれば、誤解わ必ず解ける。善隣日本わ斷乎として起ち、四億の支那民衆に光明を與えて、眞善の安定と美愛の幸福な生活環境を、廣い肥沃の温帶樂土に確立してやらねばならぬ。何處の何ん人が如何に誤解しようとも、善隣の日本わ決して躊躇するな。

支那自身の力で不安のない樂土になれるものならば、善隣の日本が心配するわ、餘計な内政への干渉であらう。支那自身の力で果たして不安のない樂土に行けるであらうか。過去三千年の支那歴史を見るに、支那に平和の安定があつたのわ、漢と唐と清の創政初期だけであり、群雄の野心家何時も各地に割據し、野にも山にも絶えず土匪や馬賊が構え、支那の民衆わ安定と和樂を知らず、肉體欲望の缺乏だけに飢えて、人間性の美や愛や眞を見詰め得ず、物質利害の打算にばかり氣が疲かれ、哀れな肉體だけの存在を辛らくも續けて來たのである。善隣の國から力強い配慮の努力を寄せなければ、永遠に支那民衆わ救われぬであらう。

支那の主權を責めても無理である。支那わ歴史あつての昔から、土匪の群雄が割據して、安定と和樂のない亂麻の地獄であつた。いやいや、支那だけでわない。我國でも昔わ山賊や辻強盜が處々に待ち伏せして、旅行者の生命と貞操を蹂躪された。江戸を一步出て鈴が森に行けば、もお辻強盜が客待ちしていた。それを安定な樂土としたものが、明治政府である。

行き届いた我國の政治を非難する者がある。なるほど餘り行き届いて、本來の政治でないことを收賄までして吏僚が手を出し過ぎる。それでもまだ足りないとして、國家社會主義者などわ、政府の吏僚に商工業まで營業せよと注文し、随ぶん無理なことを考へている。しかし、それわ餘りにも氣樂な天降だりの待望でないのか。眞

理と最善に依つて考え直せば、部落生活團體を基礎とする組合と聯合が、終局規範の淨よい生活環境であり、その完成に向かい配慮することが、進んだ我國主權と吏僚の最高使命であり、此の使命を國內に於て成し遂げると同時に、善隣の大愛使命を海の連なる支那と南洋と印度や露西亞にも擴げねばならぬ。領土や貿易の利鞘を欲張つて斯く思うのでなく、亂れた其れ等の國々を整へて、哀れな全人類の半数以上を、人間性の自己完成に蘇生させるのが先進日本の廣大な主權と數多い吏僚の重大使命であるから、斯く思い悩むのである。世界が有無を通じて、親しみあう今日と今後に於てわ、もおこせと官僚主義を國內で愛玩すべきでない。

支那わ昔から今までに嘗つて整頓したことがない。今日と今後に於ても、支那の國情を熟視するならば、自治や自衛に放任して置くと、永久に整のいが付かず、四億の民衆を親殺しの共産土匪よりも賢くなり得ないであらう。それならば、斷然と善隣國から誠心誠意の配慮をせねばならぬ。

私わこのことを絶えず思い悩んでいる。どおすれば善いのか。これ世界最大の悩みである。幸わいにも我國にわ劍・鏡・瓊の光り輝やく不動の中心主權がある。不心得者わ專制支配だと非難するけれども、主權の必要わ個人の狭い感情より議論せず、社會と大衆を眞善安定と美愛幸福に導びく最有效な方法わ何にであるかを問ひ、廣い普遍意識から永遠を見詰めて冷靜に判斷せねばならぬ。人間理學の確認によれば、人類の意識わ誰れでも生まれた時わ、ただ芽生えでしかなく、肉體の成長と共に意識も進むけれども、生活環境の悪い間だわ、缺乏する物質の方向にばかり落ちて、肉體の欲望と利己的な感情より廣く意識を擴げ得ないから、生まれた時の幼稚な意識を廣く純美純愛眞の人間性にまで展開さす爲め、國々と世界の生活環境を淨化して、人間と人類の完成を知らす力強い啓蒙と指導の中心がなければならぬ。この中心わ動搖せず、また墮落せず、收賄せず、争そわす、永遠に脱線のない天體の確實さで大善仁義の軌道を進まねばならぬ。人類わ生れたときの意識が暗らく、肉體の成長

と共に意識を進めるけれども、脱線と墮落がありがちである限り、自由でなく平等でなく自治でない、賢明な政治と組織の啓蒙と指導が必要であり、その政治と組織を維持するにわ、絶対に野心のない不動の強力な中心がなければならぬ。斯く思ひ支那や印度や、また歐米の國々を見るとき、美愛眞の劍・鏡・瓊を奉持する我國の主權わ、永遠に世界と全人類から仰がれる不動の實力意識でなければならぬ。我國の主權と吏僚の使命わ重大であり、なごらの野心を持たず、支那や印度や南洋や、世界の遅れた國々を導びいて、諸民族の各自を人間完成にまで誘わねばならぬ。野心わないから、この重大使命の爲めに、先覺先進の列強國わ、主權と主權が共力し、民衆と民衆が結合し、本統に力強く同じ普遍意識で盡くしあうであらう。

連綿と續いて自然物理の歴史關係に安定あるわ幸わいであり、狭い歐米の平等思想から之を非難するわ、偏狹意識の個人感情文學である。斷然とそんな歐米思想の逆か立ち文學を粉砕しろ。國と民族にわ不動の中心がなければならぬ。しかし決して中心地位にいる人が、優越を感じ贅澤な生活をしてても善いと阿諛するのでわない。雄略帝や天智帝や仁徳帝や後三條帝の如く、主權者わ民衆と共に悩んで、先覺先驅の普遍意識から、身を以つて範を示す規範と完成の中心でなければならぬ。貴族や吏僚わ此の重大使命を補け、安逸坐臥する徒食の有閑階級を勝手な優越觀に錯覺してわならない。

新らしい國にわ自然の中心がないから、大統領を選ぶ共和主權とせねばならぬが、思えば厄介千萬なことである。それを平等思想と満足に思う者もいる。けれども大統領と農牧人が平等な生活をしてるのでわなく、成り上がり者の氣持ちが大統領にあるを思うと、レーニンやスターリンやムソリーニやヒトラーの方が、遙かに堯舜に近いかいと思われ。それでも主權わ歴史の結果であつて、是非と良否を論じても過去に遡のぼり昔の事實を變更することわ不可能である。支那にわ不幸にして、今日でも中心がなく、民衆の意識が強よい者も普遍意

識にわ行かず、優越觀の偏狹利己心と掠奪武勇を鍛鍊して、土匪の首領から群雄の隊長となる。しかし、嘗つて堯舜があり周公や孔子もいたことであるから、民族の素質わよいのである。ただ種族が混合して古しえより中心がなかつた爲めに、攻略の戦國と山賊土匪の亂世が續き、その旗頭になることを立身出世の名譽と錯覺している。この錯覺を訂正し、どおすれば支那を規範と完成の方向へ安定さし得るのか。悩み悩んで思い詰めても、決して他に方法がない。善隣國から犠牲の好意を寄せて實力指導をすれば、最も早く支那の生活環境を淨化し、民族を安定の完成に誘うであらう。

支那からも普遍意識者が多く出でよ。果たして之を急に可能な待望であらうか。餘りにも生活環境が悪るいで、待望しても待望しても、ほんとの犠牲心ある普遍意識者わ、容易に支那から出ないであらう。幸わいにも日本の努力わ滿洲を樂土とした。樂土を延長することわできぬであらうか。この配慮に對し、支那の主權と土匪や共產匪の頭目だちわ誤解し、民衆の反感を煽動するであらう。露西亞や英・米・佛の主權も誤解しよ。それでも遠慮することわない。我國の誠心誠意を世界に聲明し、出来るだけ列強諸國とも共力して、支那全土と支那全民族を指導しよ。

境を支那と接する露西亞わ強く誤解しよ。もし露西亞が共產の支配下に支那を統制する野心であれば、我國の指導と正面衝突をする。それを覺悟して、我國わ巍然たる實力指導をせねばならぬ。そのとき露西亞と實力が衝突し、萬一にも敗けてわ大變である。斷じて露西亞に敗けない強い實力指導をせねばならぬ。これわ實際問題として非常に重大であるから、起り得る場合を少々想像してみよ。

滿洲わ西比利亞と境を接する。我國より積極的に支那を指導すれば、露西亞わ西比利亞から滿洲に對し實力を示さぬのか。いやいや、露西亞わそれほど愚かであるまい。一本の西比利亞鐵道で無人の荒野を通り、大軍を

滿洲に派遣できるものでわない。滿洲わ我國本土より近かく、もし露西亞が滿洲を争そうならば、最も愚かな實力示威である。露西亞わ決して滿洲を争わす、たとえ我國より西比利亞に實力を示しても、露西亞わ強よ抵抗をせぬほど賢明であらう。

賢い露西亞が支那を共產黨の支配下に置くを望めば、陸續きに崑崙の山を越えて揚子江の上流より、中國の大平原に實力を示威するが當然の方向である。現に共產匪わ中國の平原に出沒している。けれども露西亞わ露西亞に進出せぬであらう。露西亞が進出すれば、それこそ印度を支配する英吉利を脅威し、印度支那に勢力を張る佛蘭西の恐怖となり、揚子江に貿易を擴げる米國に恨みを買う。日本と雖ども支那中國の大平原を共產黨の支配とされてわ、それこそ大きな禍根であるから、もしも露西亞が支那中國に露骨な實力を示すならば、英・佛・日・米の利害が共通し、世界列國と戦かう準備がなければならぬ。その實力が露西亞に充實したならば、共產主義に忠實な限り、露西亞わ中國平野に進出するものと見ねばならぬ。そのときこそ我國わ英・米・佛とも共力し、實力で支那を指導せねばならぬ。英・米・佛わ遠いから、大きな努力の犠牲わ我國で引受け、支那わ安定の樂土となるであらう。

露西亞の進出がなければ、なおさら我國より實力を指導せねばならぬ。そのときわ英・米・佛が誤解するであらう。しかし、英・米・佛わ露西亞の實力を招くことを躊躇する。我國わ誠心誠意から領土野心のないことを辯明する。それでも英・米・佛が誤解し、不幸にも實力の衝突が起れば、英・米・佛わ中國平野に露西亞を招かず、西比利亞から滿洲に露西亞を進出さす。我國の實力わ四方に戦線を擴げねばならず、非常な苦境に落ち入るから、持久戦で遠く進まず、海岸線に潜水艇を待機さす。英・米・佛の遠來わ遂に疲勞し、我國の眞意が最後に了解されるであらう。そのあいだに獨逸や伊太利が何に事かを考えるならば、或るいわ世界の地圖が大きく變動し、印度ま

で解放されるかも知れない。いやいや、之が最悪の場合を想像してみただけであり、英・米・佛が賢いから、我國と共力して平和に支那を安定の樂土としよ。

支那を安定の樂土とするにわ、鐵道や交通機關を國際輸出に依つて、奥の奥まで縦横に開通させねばならぬ。それにわ大きな勞力がある。その勞力に土匪や軍隊を使かう。支那の軍隊を解散さし、國際軍隊を支那の主要各地に駐屯さす。國際軍隊を司法と警察と産業の實力指導をなし、部落單位の組織を規範の方向に整へて、その組合と聯合を各省に擴げ、各省の聯合を全民族の總聯合にまで擴げ、支那の全土を整頓して統制する。部落代表會議が組合を管理し、組合代表會議が省聯合を管理し、省代表會議が全民族の總聯合を管理し、助長行政の種々なもので掌さる。これ經濟生活學の規範方式であり、こおした組織が完全に整なうまでわ、國際軍隊を駐在させて、その實力監視の下に、規範の方向え支那を指導せねばならぬ。

生活組織にわ部落生活團體の組合と聯合のほかに、司法や警察の政治主權がなければならぬ。不幸にして支那にわ歴史の事實に、全土を統治する政治主權がないのであるから、純美純愛純眞の普遍意識者が多數に輩出するまでわ、國際主權の協議により、司法警察の政治指導をせねばならぬ。いやいよ純美純愛純眞の普遍意識者が輩出して、民族の大衆意識を現實に指導し出せば、國際指導を撤廢し、獨自の主權を確立するのである。

支那が整なうころ、我國の強民族牽制も効果を現わして、印度も印度支那も南洋も南洋諸島も、亞弗利加もバールカンも、世界の弱民族をみな眞善規範の美愛完成に向かいだす。そして、強民族が此等の弱民族を搾取しなくなれば、世界と全人類の生活環境を淨化されて、全人類の各民族を人間性を見詰め、普遍意識の修養と鍛錬を怠らず、各自の人間實質を永久生命の精神體にまで完成しだすである。我國の普遍意識者わ、全世界の普遍意識者と共力し、その任務が非常に重大である。

我國わ領土の野心を持ち人口問題の必要から、支那や南洋諸島や、その他の遅くれた國々の内政に干渉するのでもない。日本わ全面積の八割を原野山岳とし、之を開拓して飼糧自給の有畜農業を實行するならば、氣候温和で農業することに付き、世界でも天恵の豊葦原であり、麥などわ冬の裏作で取れるので、全面積の五割を最有效に利用するならば、我國土わ農業だけでも、内地に三億萬人を養い得るのである。賢い米作日本人わ農業技師としても世界の各地から招かれ、國々の農村指導をせねばならぬ。支那や印度や南洋わ米を作っているから、此等の民族を實地に付き親切に指導する者わ歐米人でなくて、我れら日本人であらねばならぬ。日本人わ醫師としても技術に優れている。醫を仁術とする普遍意識が醫科大學の教授だちに徹底すれば、日本人わ世界の醫師ともならねばならぬ。日本人わ工業をも指導し、人間理學と經濟理學に精通して、世界と全人類の思想を啓蒙し、その完成をも指導せねばならぬ。この最後のものこそ、劃期的に最重大な使命であり、げに日本と日本人の責任わ重い。我國の全民族わ、階級や職業や地位に拘泥せず、みな普遍意識に目ざめ、精神體の自己を完成して無用となつた肉體を、世界と全人類の爲め最有效に役立てて、總奮迅に全努力せねばならぬ。世界と全人類わ強い強い普遍意識者の先驅努力によつてのみ、眞善の規範に到着して、美愛の人間實質を大宇宙の永久生命にまで完成するである。

第六十九章 永久平和の確立

遠い昔より優れた人々が永久平和を説いたけれども、單に空想の憧れでしかなかつた。いまその確實な方針が確定した。人間理學に依つて、純美純愛純眞の普遍意識が人間性の完成傾向であると判明したから、水が低きえ流れるほど確實に、永久平和が全人類の規範となつて、遠くない未來に實現することが確定した。これを理想の憧れに見詰め、根氣よい努力を続けよおぞ。

道徳からの説教だけでわ覚束ない。人間性の湧き出る傾向からであると判明するに及び、自己と存在を放棄しない限り、人間性の憧れであるゆえ、必らず實現するに決まつてゐる。實現するまで人間性わ耐え難たく思ひ悩み、飽くまでも努力するので、實現することわ確かである。現代でわまだ人類の少數者しか純美純愛純眞の人間性に徹底せぬけれども、教育と啓蒙が進むにつれ、將來わ必らず多くの人々に普遍意識の人間性が充滿するに決まつており、そのときこそ長い憧れの永久平和が確かに實現するのである。

今まで漠然と説いた。人間實質と人間性を知らず、ただ道徳として夢の如く説いた。宗教が阿片であると思われた如く、道徳わブルジョア御用學者の搾取工作と誤解された。いま人間實質と人間性が判明したから、道徳わ姿を改ため、宗教わ生まれ變わり、どちらも新らしい事實の人生觀に立つて、人間と社會の完成えと、憧れわ希望や理想わ、犠牲と努力となり、組織の制度となつて實現しよお。

現状暴露ぐらゐならば、人生觀のない文學で出来る。搾取關係の現状を暴露するに、人生觀わ無用であり、階級意識からの唯物闘争史觀ほどな、机上觀念の辯證法くらいで朗らかに説教できる。けれども、眞善規範の美愛建設を實現する苦難の努力を、啓蒙し激勵し誘導することわ、人間實質と永久生命を確認し、普遍意識の人間性に徹底してなければ、能動することも受動することも不可能である。人間理學わ觀念でなく、美教わ忍苦の實際努力である。

建設の努力が人生觀を缺いて、ロバート・オーエン等に依つて、ニュー・ハーモニーなどの名で始められたが、悉ごとく失敗であつた。アナキストの諸計畫も失敗した。文學の創作に現わし建設努力を激勵しよおとしても、人間性からの深い信念と、先驅努力の體驗がなければ、氣持ちわ相互の間だに交流しない。苦難の建設努力にまて、民族と人類の意識を緊張さすにわ、人間實質の性格と生命に徹底し、不動の責任觀と使命の信念に燃えるのでなければ、氣樂な遊戯でない忍苦の努力を、根氣よく続けさすことわ不可能である。

現状暴露なら、演壇の上えから吠えればよい。眠むりながら、夢の目ざめの時々に、煙草の咽りと一所に吐き出せばよい。現状暴露なら、誰れにも出来る。しかし、ただ無責任に吠え過ぎて、餘りに喧ましいと、少々彈壓される。これが恐ろしい。そんな腰抜け野良犬わ、まあ黙つて豚の如く寝ているがよい。長くない人生五十年、君等の人間實質わ肉體と共に減びるから、くよくよせず、まあ肉體を大切に、ぼつぼつ情慾でも満足し、急がず五十年の生命を消費することにし給えよ。

いやいや、そんな野良犬や豚などにわ拘かわつてゐられない。普遍意識者よ、世界と全人類を見詰め、身を以つて範を示しつ、重荷を負う建設努力に總奮迅しよおぞ。それにわ深い人生觀の強い信念がなければならぬ。なぜ深い人生觀の強い信念が、建設努力にだけいるのか。それわ肉體欲望を満足する毎日の勞働をした上えに、

時間と自己を最有効に役立てて、誤解する者が顔をしかめる苦言を呈し、まづ啓蒙から激勵から、寢食を忘れての努力に依つて、生活環境を眞善規範の美愛完成にまで磨き上げねばならぬからである。雨が降つても風が吹いても、中止してわ駄目である。育雛者の綿密な管理が、誤解を突破して根氣よく續かなければならぬ。自分が激動し、始めて他人を共鳴さし得る。啓蒙者にわ強い信念の緊張と激動がなければならぬ。まして、啓蒙以上の育成と練磨の努力にわ、深い深い確認と、強い強い信念がなければならぬのである。

肉體を持つ人間わ、肉體欲望を満足する爲めに働らかねばならぬ。坐つていて他人を働らかすわ搾取であるから、搾取を否定する右翼や左翼の雄辯家わ、自分の欲望満足に必要な労働を厭とう搾取をせね筈である。けれども時々労働が嫌らいで食慾ばかり強い豚や野良犬が、左翼や右翼のインテリ青年の中かにいて、自分わ勇敢に吠えるから、筋肉労働などせずに、カフェー荒らしでもしてよいと、特權搾取の優越觀を錯覺する。彼等とわ反對に、普遍意識の先驅者わ、自分の欲望満足に必要な筋肉労働を怠らず、またわ筋肉労働に代わる精神労働の努力を精勵する。しかし此の程度ならば、左翼の闘士でも右翼の謀士でも、良心を持つ者わ誰れも怠らず精勵しているであろお。普遍意識の先驅者わ、それ以上に自分の爲めに坐つて讀書などしてよい餘暇を、民族と人類の社會に捧げ、忍苦の努力を現實に緊張さし、人間と社會を眞善規範の美愛完成に誘わんとする。これが建設努力であり、このゆえに建設努力に向かうにわ、自分から激動する深い人生觀の強よい信念がなければならぬ。

人間實質と永久生命を確認して、強よい信念の深い人生觀に徹底する普遍意識者わ、飽くまでも自己と時間を最有効に役立て、緊張した全努力を根氣よく總奮迅に繼續する。人間理學から純美純愛純眞の普遍意識を、かくも鞏固に人間性の自分自身が握り締めれば、どんな困難の犠牲にも屈せず、人間實質の精神體を完成して、無

用となつた肉體を世界と全人類の爲めに捧げるから、遂にわ列強國も牽制されて共鳴し、もちろん弱民族わ啓蒙されて覺醒し、そのとき永久平和が長いあいだの憧がれを實現し、げに長いあいだの希望と理想が到來して、純美純愛純眞の永久平和が、普遍意識の人間性と共に、春風の如く地球の隅から隅へと無限に漂よう。

國際間の實力衝突により、最後に永久平和が實現するであろおか。即ち第二世界戦争により、終局の永久平和が實現するであろおか。我等わ國際貿易關係の公益普遍意識によつて、戦争の悲惨なしい永久平和の穩やかな途が開けることを思う。これわ期待であり、希望の理想でもある。けれども戦争によつてわ、永久平和の實現され難たい事實關係を發見すると、どおしても此の希望の理想を努力し出さねばならぬを期待する。

世界わ戦かうであろおか。第二世界戦争が起きるであろおか。バルカンで長いこと西歐の諸強國が、利害關係を衝突させている。しかしバルカン問題でわ、も歐洲わ戦かうまい。なぜなら、バルカン問題で戦こおても、新しい國際の勢力均衡に改まるだけであり、決して永久安定の基礎が確定されぬからである。列強がバルカンを超越し、始めて永久平和が實現するであろお。

假りに佛蘭西と伊太利が戦かうとする。獨逸が伊太利に組みし、英吉利が佛蘭西に組みするとする。露西亞も伊太利と獨逸に加勢するならば、巴里を圍むことわできよお。それでもロンドンを陥落さすわ困難である。飛行機がロンドンを脅迫し、英吉利と佛蘭西が屈服して、バルカンに新しい均衡が決められても、こんどわ伊太利と獨逸が戦かわねばならぬ番となる。露西亞も無關心であり得ない。だから戦争わ、ただ破られた均衡を修繕するだけである。結局バルカンを超越せねばならぬ。西歐列國が民族としての國際搾取を止め、英吉利も佛蘭西も農業基本に歸えり、工業品わ海外に輸出しても、良品を安價に供給する産業普遍意識に進めば、生産費を決定する人間労働の價値わ、同じ程度に緊張し熟練する限り、印度人も支那人もバルカン人も、英吉利人や佛蘭西人や

亞米利加人と均一に計算され、世界と全人類の利害を完全に一致して、搾取が消滅すると同時に、戦争も愚かな徒勞であると判明する。列國はバルカンを超越し、亞弗利加を超越し、支那を超越し、印度も南洋も超越し、美愛眞善の普遍意識から、此に始めて永久平和が實現する。

戦争は強國と強國を撲ぐりあわし、弱民族を搾取する勢力の均衡を修正するが、戦勝強國の方から、自分で搾取の優越地位を放棄せぬ限り、戦争は永久平和の公道でない。どんなに悲惨な世界戦争を繰り返しても、決してバルカンを超越されず、戦争は断じて西洋にも東洋にも平和を迎える公道とならぬ。軍隊の實力は戦争に勝つ爲めでなく、戦かわない正義の勸告を承認さす示威の爲めである。戦争さすものが軍備でなく、強大な軍備は戦争を避けさす爲めである。げに軍備の軽い封建時代でわ、戦争が餘りにも容易であつたから、封建諸侯は狩獵する氣持ちで戦争した。軍備が強大となり、一度戦かえば國力を賄し、世界を修羅場にして、幾百万人を犠牲とせねばならず、そおかと言つて、戦争に勝つても、別に大した物質上の利益は獲得されないので、軍備に對する認識が進歩し、征服と掠奪の軍隊は、正義と人道の規範完成を促進する武装の警察實力と思われだした。

西歐各國は戦かうと見えても戦かわぬであらう。戦かひによつて、ロンドンに焼土とならず、マンチェスターも焼土とならぬ。東洋に於ても、支那を挟んで戦かうらしく見えるが、遂に戦かわぬであらう。世界が總聯合しても、日本を焼土とすること不可能である。結局世界は戦かわぬであらう。しかし、經濟の貿易戦により、公益會社と農村聯合の規範組織を實現した國は、營利會社の資本主義國や、高級吏僚が國家社會主義で支配する國を没落さす。ロンドンの空にもマンチェスターの空にも煤煙は薄らぎ、農村の共働部落が共用生活の單位となり、その組合と聯合が世界の國々を同じ規範の完成に誘うころ、世界に必らず永久平和が確立する。これを理想の憶がれとして、全人類はまづ各自の人間實質を完成するに努め、人間自己を完成に進めた普遍意識者國々に

會合して、その總聯合を世界に擴げ、純美純愛眞善の普遍意識が基礎となつて、支那をも印度をも南洋をも亞弗利加をもバルカンをも、英吉利や亞米利加や佛蘭西と同じ安定の樂土としようぞ。世界の各地が、共働部落の共用生活團體を單位に、まづ地方聯合より民族聯合に、最後に世界の總聯合にまで發展するならば、國境は府縣の境界ほどの意義しなくなり、争そいと猜疑が政治と經濟の全生活から消えてなくなる。之を憶がれの希望に抱き、おほ、日本人よ、全人類よ。老いも若きも、男も女も、人間理學と經濟生活理學によつて、みながみな悉くよく目ざめよおぞ。美教者も過去を責めず現在に努力して、將來に眞善規範の美愛完成を期待する。美教も美教の爲めに説かれず、人間と其の社會を完成する爲めに説かれる。

終

昭和十一年十月二十日印刷
同 年十月廿五日改訂發行
定價 金參拾錢

著 者 岡 本 利 吉
發行者 岡 本 利 吉
印刷所 東京市世田谷區北澤五丁目七一〇番地
使 命 社
印刷人 東京市世田谷區北澤五丁目七一〇番地
上 村 祐 造

發行所 神奈川縣都筑郡新治村新井新田四九八番地
美 愛 郷 純 眞 社
振替東京四八九〇〇番